

KORG DIGITAL PIANO

**CONCERT**



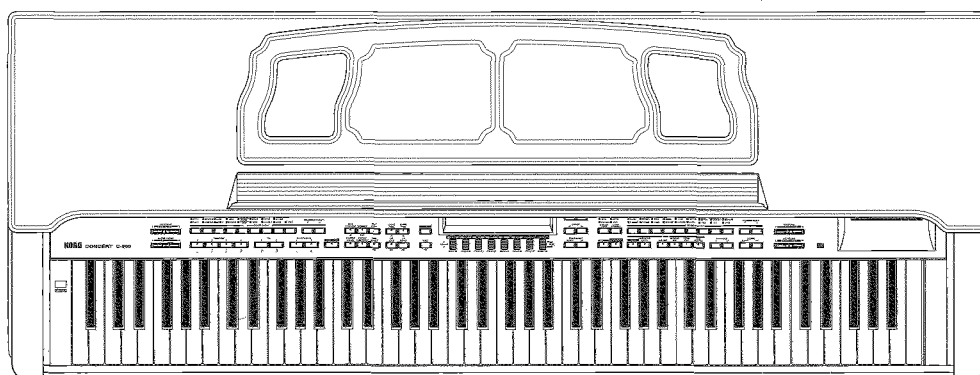
**C-900**

# 取扱説明書

GENERAL  
**MIDI**  
INSTRUMENT

最初にこの本からお読みください

PCI/F



**ai** AI<sup>2</sup> Synthesis System

**KORG**

## 安全上のご注意

マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



**WARNING:**  
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT  
EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

## 火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください。

ピアノはご家庭の中で身近に置かれ、お子様から専門家の方まで幅広くご愛用いただくものです。

ピアノは大きくて重いものですので、室内での置き場所や日常の取り扱いについて、安全にご使用いただくための注意をお願いします。小さなお子様には、最初にご家族の方から教えてあげてください。



## 警告



- 本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。
- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
- 設置は水平で平らな床面に行なってください。
- 本製品を移動する時に引きずって行なうと床面を傷付けるばかりでなく、思わぬ事故を起こしかねません。必ず2人以上で持ち上げて移動してください。
- 次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードをコンセントから抜いて、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
  - 電源コードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
  - 製品が(雨などで)濡れたとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき
- 次のような場所での使用や保存はしないでください。
  - 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など:外装等の変形や火災の原因になります。)
  - 水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所
  - ホコリの多い場所
  - 振動の多い場所



- 本製品はキーカバーまたは譜面立ての開閉時に指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分注意してください。



- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。

- 本製品の上に上がったり、下にもぐり込んだりして遊ばないでください。

- 本製品の上に物を置かないでください。落ちると危険です。

- 本体に前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。

- 地震の時はピアノに近づかないでください。

- 電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。電源コードに傷がつき危険です。

- 本製品を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせ使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

- 本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対にいれないでください。



- この機器を分解したり、改造したりしないでください。

## 警告(スタンド)



●付属のスタンドは「ST-900(付属)スタンドの組み立て方」(P.6)に従って、確実にピアノ本体を設置してご使用ください。その際、必ず“ペダル用コネクター”をPEDAL端子に差し込んでください。また本製品を移動する場合はピアノ本体からスタンドを取り外し、別々に移動させてください。



●付属のスタンドは、長期間ご使用になりますとネジが緩む場合があります。使用中に揺れが大きく感じられた場合は、安全のため「ST-900(付属)スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。

## 警告(イス)



●付属の椅子はピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり、踏台にすると転倒したり壊れたりして危険です。



●高さ調節は椅子から降りて確実に行ってください。腰掛けたまま行なうと手を挟むことなどが危険です。

●付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けないでください。

## 注意



●本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。



●外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。

●本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このためラジオやテレビなどを接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆にラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは十分に離してご使用ください。

●製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効となります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。

●他の電気機器の電源コードといっしょのタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

●今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。

●スイッチやツマミに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。



●電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。



●長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

## バックアップ・バッテリーについて

本製品は、電源オフ後に内蔵メモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用バッテリーを装備しています。液晶画面に“Battery Low”の表示が出たら、バッテリーの交換を行う必要がありますので、最寄りのコルグ製品取扱店または(株)コルグ営業技術課までお問い合わせください。

## データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはフロッピーディスクまたは外部のデータファイラー(記憶装置)等にセーブしておいてください。また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

# 目次

はじめに.....	vi
<b>1. 各部のなまえとはじめの操作.....</b>	<b>1</b>
正面パネル.....	1
操作パネル.....	2
背面パネル.....	4
ご使用になる前に.....	5
<b>2. フロッピー・ディスクについて.....</b>	<b>9</b>
フロッピー・ディスクの種類とフォーマット.....	9
フロッピー・ディスクの取り扱いについて.....	9
フロッピー・ディスクのライトプロテクトについて.....	10
フロッピー・ディスクの入れかた.....	10
フロッピー・ディスクの取り出しかた.....	10
ヘッドのクリーニング.....	10
<b>3. C-900に触れてみましょう.....</b>	<b>11</b>
1. <b>C-900</b> の鍵盤に触れて、音を出してみましょう.....	12
音色を変えてみる.....	13
鍵盤を二つに分ける.....	14
弾きやすく歌いやすく.....	15
2. <b>C-900</b> の自動演奏を聴いてみましょう.....	18
デモ.....	18
ソング・プレイ.....	19
マイクを接続して歌ってみましょう.....	20
3. 自動伴奏をつけながら演奏してみましょう.....	22
シンクロ・スタート.....	24
シンクロ・ストップ.....	24
タップ・テンポ.....	24
キーボード・ロック.....	24
4. 自分の演奏を、 <b>C-900</b> に録音して聴いてみましょう.....	25
演奏を保存しておきたいときは.....	26
5. 演奏データをさらに完璧なものに仕上げることが できます.....	27
6. 音符を1つずつ入力していった、演奏データを作ることが できます.....	28
7. メロディだけを演奏して、 <b>C-900</b> に自動的に伴奏を つけさせることができます.....	30

<b>4. C-900の基本コンセプト</b> .....	31
1. モードとページ .....	31
モードとは .....	31
ページとは .....	32
2. スタイル/アレンジメント/プログラム .....	34
アレンジメントとは .....	34
プログラムとは .....	34
<b>5. 画面をみながらC-900を操作してみましょう</b> .....	35
1. カーソルを動かしてみましょう .....	35
2. 「音の大きさ」や「速さ」を調節するには .....	36
<b>6. インタラクティブ・コンポジション</b> .....	37
1. インタラクティブ・コンポジション機能の設定 .....	38
2. 弾いたメロディにコードをつけてみましょう .....	39
<b>7. 機能と操作・用語集</b> .....	45
<b>8. MIDI機能</b> .....	59
外部シーケンサーとC-900を組み合わせる .....	59
C-900から別のMIDI楽器をコントロール .....	60
General MIDIとは? .....	60
スタンダードMIDIファイルについて .....	60
<b>9. コンピュータとの接続</b> .....	61
IBM PC (互換機)との接続 .....	61
Apple Macintoshとの接続 .....	61
NEC PC-9800シリーズとの接続 .....	61
KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ .....	62
KORG MIDI DriverのWindows95へのインストール .....	62
KORG MIDI DriverのWindows95のセットアップを変更する場合 .....	63
KORG MIDI DriverのWindows 3.1へのインストール .....	64
KORG MIDI Driver (Windows)のセットアップ .....	64
KORG MIDI DriverのMacintoshへのインストール .....	65
KORG MIDI Driver (Macintosh)のセットアップ .....	65
<b>10. 仕様とオプション</b> .....	69

---

# はじめに

このたびは、コルグ **C-900**をお買い上げいただきましてありがとうございます。

**C-900**は、高品位ステレオ・サンプリング・ピアノをはじめとした327種類の楽器音(プログラム) プラス16種類のドラムキットから成るハイクオリティな音色と、192種類の自動伴奏データ、48種類のバリエーションをもつ2系統ステレオ・デジタル・マルチ・エフェクターを内蔵し、これまでの自動伴奏機能つき電子ピアノを大きく超える多彩な機能を備えたミュージック・エンタテインメント・ピアノです。

**C-900**には、通常の電子ピアノとして手軽に演奏を楽しむことのできるピアノ・モードに加えて、コードを簡単な指使いで指定するだけで、本格的な伴奏を自動演奏できるアレンジメント・プレイ機能、録音・編集能力を備えたバックিং・シーケンス機能、市販のスタンダードMIDIファイル形式のミュージック・ソフトを再生できるSMFソング・プレイ機能、演奏されたメロディに自動的にコード進行を付け加えることのできるインタラクティブ・コンポジション機能、パソコンを接続してコンピュータ・ミュージックを楽しむことのできる接続端子など、インタラクティブ・ミュージック・ワークステーションとしてのさまざまな機能をそなえています。これに加えて、マイクを接続してのカラオケ機能など、簡単な操作で作曲や演奏を盛り上げる機能が満載されています。

**C-900**を末永くご愛用いただくためにも、この説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用いただくことをお願い申し上げます。

## 取扱説明書

取扱説明書(本書)は、**C-900**の各部分の説明に始まって、基本的な操作や概念の解説、さまざまな機能を順を追って操作することによって体験していただく章や、外部機器と接続してさらに機能を広げるための手引きが記されています。

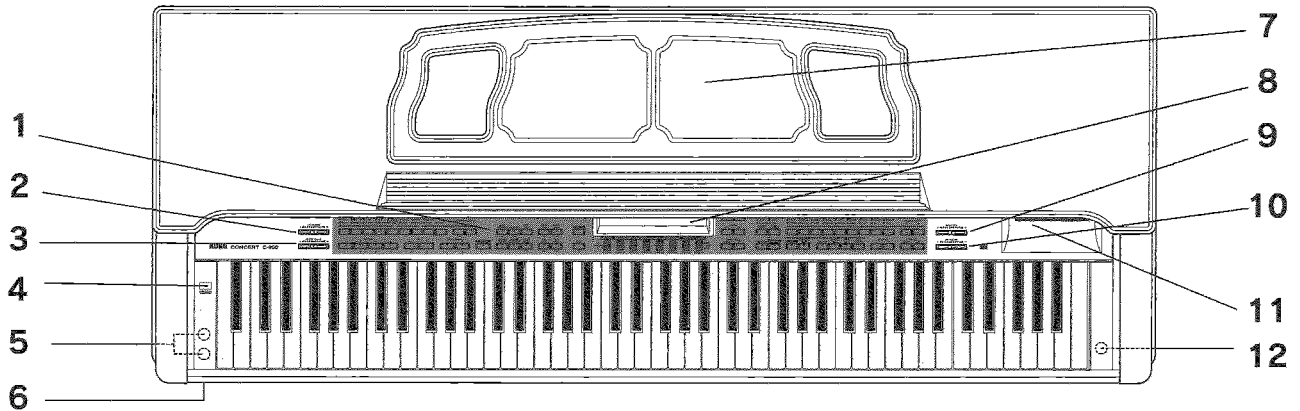
## 活用ガイド

活用ガイドでは、**C-900**のさまざまな機能や設定項目を、パネル上のLCDディスプレイ(液晶画面)の表示に基づいて説明します。また、**C-900**に内蔵あるいは付属している数々の音色や伴奏データの一覧も巻末に添えられています。

※ 取扱説明書には、機能や操作の解説とともに液晶画面の図が随所に記載されていますが、これらの画面上のプログラムやアレンジメントの番号や名前、各種のパラメータ、数値などは、表示の例として記載されています。したがって、仕様や音色プログラムなどの改善により、実際の**C-900**本体の液晶画面表示とは一致しない場合がありますので、ご了承ください。

# 1. 各部のなまえとはじめの操作

## 正面パネル



### 1. 操作パネル

C-900の操作パネル上にはさまざまな機能をもったたくさんのキーがあります。キーによっては、1つのキーでいくつかの異なった働きをするものもありますが、これらのキーは機能ごとにその名前が色分けされています。それぞれのキーの名前と大まかな働きについては、次ページの「操作パネル」を参照してください。また、それぞれのキーのさらにくわしい機能については、P.45からの「機能と操作・用語集」に詳しく説明されています。

### 2. ACC VOLUME アカンパニメント・ボリューム

アレンジメント・プレイ・モードとソング・プレイ・モードでキーボードトラック以外のバックイングの音量を調節します。

### 3. MASTER VOLUME マスター・ボリューム

C-900全体(スピーカー、ヘッドホンおよびアウトプット)の音量を調節します。

### 4. 電源スイッチ P.8

C-900の電源をオン/オフするスイッチです。

### 5. ヘッドホン端子(本体の底面にあります)

ステレオ・ヘッドホンをこの端子につなぐと、周囲に音を出さずにC-900を演奏したり、音を聴いたりすることができます。ヘッドホンは、2つまで同時につなぐことができます。市販のヘッドホンを使用される場合には、ステレオ・ヘッドホンの標準タイプのものをお選びください。

### 6. POWERランプ

C-900の電源をオンにすると点灯します。電源をオフにすると消えます。

### 7. 譜面たて P.8

### 8. 液晶画面

C-900の状態についてのさまざまなメッセージや、設定状況を表示する画面です。表示される内容については、活用ガイドにくわしく説明されています。

### 9. ECHO LEVEL エコー・レベル

マイク・インプット端子にマイクを接続したとき、マイクにかかるエコーの量を、このボリュームで調節することができます。

### 10. MIC VOLUME マイク・ボリューム

マイク・インプット端子にマイクを接続したときの、マイクの音量を、このボリュームで調節することができます。

### 11. フロッピー・ディスク・ドライブ

ここに3.5インチ両面倍密度(2DD)または両面高密度(2HD)のフロッピー・ディスクを挿入して使用します。フロッピー・ディスクの取り扱いについては、P.9からの「フロッピー・ディスクについて」を参照してください。

### 12. マイク・インプット端子(本体の底面にあります)

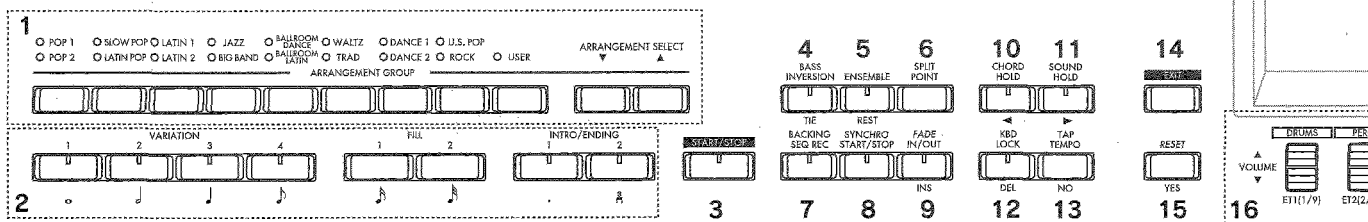
カラオケ用のマイクや、コルグ・インタラクティブ・ハーモニー*ih*を接続して、楽しむことができます。*ih*をご使用になる場合は、*ih*に付属の取扱説明書も、合わせて参照してください。

# 操作パネル

キーの名前のあとについている星印の数は、C-900の使いこなしのレベルに応じて、下のように分類されます。

- ★ もっとも基本的な操作をするためのキーです。C-900を普通の電子ピアノとして使用していただくためには、まずこれだけのキーの働きを知っていれば大丈夫です。
- ★★ 普通の電子ピアノとしての使用にある程度慣れて、自動伴奏や、ご自分の演奏を録音して楽しむときなどに使用するキーです。
- ★★★ 自動伴奏にさまざまな彩りを添えたり、液晶画面をみながら録音やその他のさまざまな機能の設定を細かく変更するときに使用するキーです。

キーのなかには、このページに記されている以外の働きをするものも数多くあります。1つ1つのキーのくわしい動作や働きについては、P.45からの「機能と操作・用語集」を参照してください。



## 1. ARRANGEMENT GROUP/ARRANGEMENT SELECTキー★★

自動伴奏の種類を選びます。

## 2. スタイル・エレメントキー★★★

（VARIATION 1~4, FILL 1&2, INTRO/ENDING 1&2）  
自動伴奏のときに、イントロ（前奏）やエンディング（後奏）、フィルインやエンディングを自由に加えて、曲の展開を、よりバラエティに富んだものにすることができます。また、これらのキーは、ステップ・レコーディングでは入力したい音符の長さを指定するときに使います。P.45からの「機能と操作・用語集」を参照してください。

## 3. START/STOPキー★

メトロノームや自動伴奏、演奏の録音などを開始したり、停止したりします。

## 4. BASS INVERSION/TIEキー★★★

コード・スキャニング機能を使用しているときに、ベース音をコードの基音とは別に指定したい場合、このキーを押します。P.47  
また、ステップ・レコーディングにおいて2つの音符をつなぐときにも使います。P.57

## 5. ENSEMBLE/RESTキー★★

コード・スキャニング機能を使用しているときに、検出されたコードにしたがって、鍵盤で弾く音にハーモニーをつけることができます。P.49  
また、ステップ・レコーディングにおいて休符を入力するときにも使います。P.54

## 6. SPLIT POINTキー★★

コード・スキャニング機能や、キーボード・アサインで、鍵盤を左右二つの範囲に分けて使用するとき、その境目となる位置を自由に設定することができます。P.56

## 7. BACKING SEQ RECキー★★

ご自分の演奏を録音する前の、さまざまな準備の設定をするときに使います。

## 8. SYNCHRO START/STOPキー★★★

鍵盤に触れると同時に、自動伴奏がスタートすることができます。また、鍵盤をはなしている間伴奏を止めます。

## 9. FADE IN/OUT/INSキー★★

自動伴奏を使用して演奏する場合、曲が始まるとき音が徐々に大きくなっていくように、また曲が終わるときは音が徐々に小さくなっていくようにすることができます。また、イベント・エディットでイベントを挿入するときにも使います。P.50

## 10. CHORD HOLD/◀キー★★

自動伴奏のときのコードを、鍵盤から手を離しても鳴り続けるようにすることができます。和音の変わるときにだけ鍵盤を押さえればいいので、演奏が一段と楽になります。また、ステップ・レコーディングにおいてステップを移動したり、アレンジメントやバックキング・シーケンスの名前を変更するときにも使用します。P.47

## 11. SOUND HOLD/▶キー★★★

左手で弾いた音を、鍵盤から手を離しても鳴り続けるようにしたり、ベース音を付加することができます。ディスク/グローバル・モードでの設定によって、動作の仕方が異なります。活用ガイドP.65  
また、ステップ・レコーディングにおいてステップを移動したり、アレンジメントやバックキング・シーケンスの名前を変更するときにも使用します。P.55

## 12. KBD LOCK/DELキー★★

自動伴奏の途中で、アレンジメント（伴奏の種類）を変更しても、鍵盤を弾く音や演奏のテンポが変更されないようにすることができます。また、イベント・エディットでイベントを消去するときにも使用します。P.48

## 13. TAP TEMPO/NOキー★

叩く速さに応じて、メトロノームや自動伴奏、自動演奏のテンポを調節することができます。P.57  
また、確認の画面などが表示されたとき、その操作を中止する場合などにも使用します。P.53



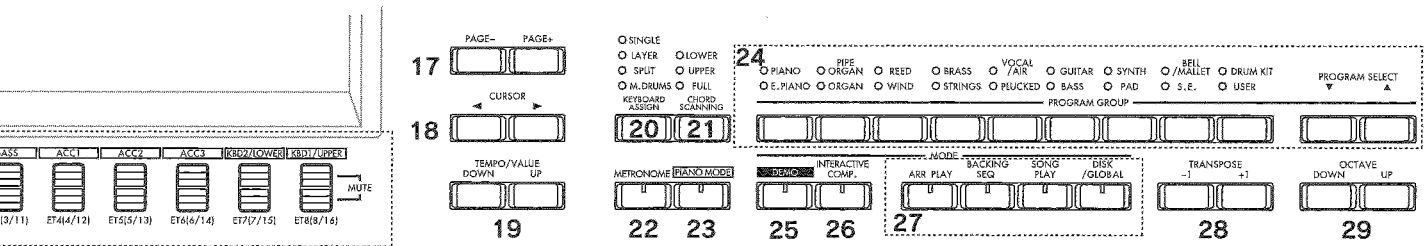
## 14. EXITキー★

液晶画面を一番はじめのページの表示画面に戻すときに使います。

## 15. RESET/YESキー★

さまざまな設定を、一番はじめの状態に戻すためのスイッチです。P.54

また、確認の画面などが表示されたときに、その操作を確定する場合などにも使います。P.58



## 16. VOLUME/MUTE/Tr/Chキー★★

鍵盤や自動伴奏、自動演奏で聴こえてくるそれぞれのパートの楽器の音量を調整したり、一時的に音を消したり(ミュート)するのに使います。また、設定を変更したいトラックや1から16までのMIDIチャンネルを指定するのにも使います。

## 17. PAGEキー★★

液晶画面に表示されるページ(モードごとに、いろいろな機能を分割して表示する画面)を順に切り替えます。

## 18. CURSORキー★

液晶画面に表示されるいくつかの設定項目のなかから、変更したい項目を選んだりするときに使います。

## 19. TEMPO/VALUEキー★

メトロノームや自動伴奏、自動演奏の速さ(テンポ)を調節します。

## 20. KEYBOARD ASSIGNキー★★

二種類の音色を、1つの鍵盤から同時に出したり、右手側と左手側の鍵盤から異なった音色を出したり、1つ1つの鍵盤から異なる打楽器の音を出したり...といった機能を選ぶことができます。P.51

## 21. CHORD SCANNINGキー★★

簡単な指使いで、複雑なコードを演奏することができるコード・スキャニング機能を、鍵盤のどの範囲で働かせるかを選ぶことができます。P.47

## 22. METRONOMEキー★

液晶画面に表示されているテンポにしたがって、メトロノームの音を鳴らすことができます。P.52

## 23. PIANO MODEキー★

C-900を普通の電子ピアノとして使用したいときには、このキーをONにしておきます。

## 24. PROGRAM GROUP/PROGRAM SELECTキー★

演奏したい音色を切り替えることができます。

## 25. DEMOキー★

このキーを押すと、C-900の自動演奏のデモンストレーションを聴くことができます。P.18

## 26. INTERACTIVE COMP.キー★★★

演奏したメロディや記録されている演奏データを分析して、そのメロディに適した伴奏のコード(和音)をC-900が自動的に示してくれる、インタラクティブ・コンポジション機能が働きます。つけられたコードはそのまま自動伴奏に利用することができ、曲想に応じて何通りものコードをつけることもできます。P.37 第6章

## 27. MODEキー★★

C-900の4つの大きな機能を切り替えるためのキーです。通常のピアノ演奏や自動伴奏機能を使った演奏を楽しむことのできるアレンジメント・プレイ・モード(P.46)、あなたの演奏を録音したり、自動演奏のデータを作成することのできるパッキング・シーケンス・モード(P.47)、フロッピー・ディスクを使って、スタンダードMIDIファイル形式の演奏データを再生して楽しむことのできるソング・プレイ・モード(P.55)、MIDI機能やフロッピー・ディスクによるデータの管理をはじめとした、様々な機能の設定などを行うディスク/グローバル・モード(P.48)の4つのモードを、これらのキーで選択することができます。モード・キーを押すと、キーのLEDが点灯して、現在どのモードに入っているかを表わします。

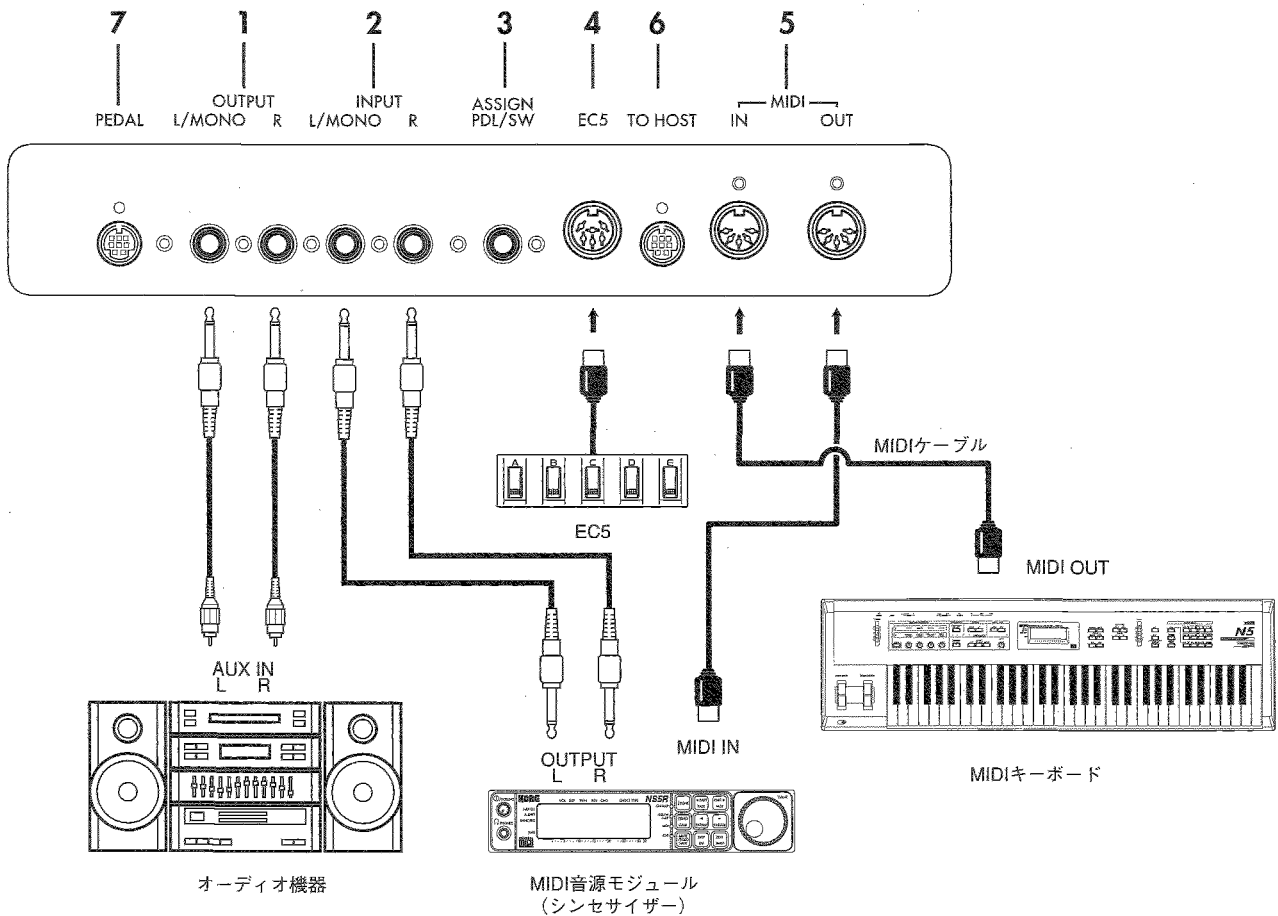
## 28. TRANSPOSEキー★

鍵盤の演奏や、自動演奏の音の高さを移調したいときに、このキーを押します。

## 29. OCTAVEキー★

鍵盤の演奏や、自動演奏の音の高さをオクターブ単位で上下させることができます。

## 背面パネル



### 1. OUTPUT アウトput端子

お手持ちのオーディオ・システムや、キーボード・ミキサーなど、外部の機器に**C-900**を接続して、これらの機器で**C-900**のサウンドを楽しむことができます。

ステレオ接続の場合には、左右の信号がL/MONO端子とR端子からそれぞれ出力されます。モノラル接続では、L/MONO端子を使用してください。

音量の調整はマスター・ボリュームで行います。

### 2. INPUT インput端子

音源モジュールやカセットレコーダー、CDプレーヤーなど、外部機器からの信号を**C-900**に入力して、**C-900**本体のサウンドと一緒に、内蔵スピーカーやヘッドホン、あるいは外部出力に接続したオーディオ・システムなどで楽しむことができます。

ステレオ接続の場合には、L/MONO端子とR端子を使用し、モノラル接続では、L/MONO端子を使用してください。INPUT端子に接続した外部機器の音量は、それぞれの機器側のボリューム・コントロールで調節してください。

### 3. ASSIGN PDL/SW

#### アサインابل・ペダル/スイッチ端子

別売の**コルグ・ペダル・コントローラ**XVP-10、EXP-2や**フット・スイッチ**PS-1などを接続します。これらのペダル類がどのような働きをするかは、**ディスク/グローバル・モード**で設定することができます。☞活用ガイドP.63

### 4. EC5 EC5端子

別売の**コルグ・エクスターナル・コントローラ**—EC5を接続します。**ディスク/グローバル・モード**で、EC5上の5つのスイッチに、それぞれ異なった機能を割り当てることができます。☞活用ガイドP.64

### 5. MIDI ミデー端子

キーボードやコンピュータなど、他のMIDIインターフェイスをもった機器とデータをやり取りするのに使います。他の機器との接続には、別売のMIDIケーブルが必要です。MIDI IN端子は、他の機器からのMIDI信号を受信します。MIDI OUT端子は、他の機器へMIDI信号を送出します。

☞P.59「MIDI機能」

### 6. TO HOST TO HOST端子

MIDIインターフェイスを持たないコンピュータなどと**C-900**とを直接接続して、データのやり取りをすることができる端子です。接続にあたっては、つなぐコンピュータの種類に適した別売の接続キットをお選びください。

☞P.61「コンピュータとの接続」

### 7. PEDAL ペダル端子

専用スタンド**ST-900**のペダル用コネクタを接続します。

## ご使用になる前に

本書のはじめにある「安全上のご注意」、「火災・感電・人身障害の危険を防止するには」、「注意」、「警告」の各項をよく参照してください。

### 準備

#### 付属品の確認

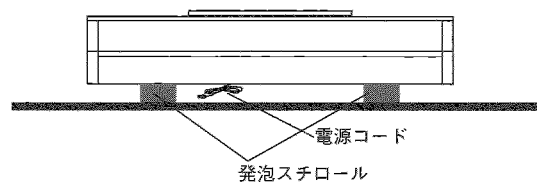
下記の付属品がまちがいになく揃っていることを確認してください。

- ・ 「取扱説明書」(この本です)
- ・ 「活用ガイド」
- ・ フロッピー・ディスク CFD-01P ..... **C-900**で使用できる音色や自動伴奏のデータが5種類収められています。
- ・ ヘッドホン
- ・ 日本語シート
- ・ (別箱)専用スタンド **ST-900** ..... **C-900**の専用スタンドです。組み立て方の説明を参照して、正しく組み立ててからご使用ください。
- ・ 専用椅子(スタンドの箱に入っています)

#### 本体の置き方

本体の箱から梱包材の発泡スチロールを2個取り出し、下図のように配置し、その上に本体を置きます。

スタンドに組み付けるまでこの状態で置いてください。



## スタンドの組み立て方



### 注意

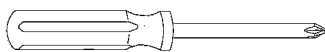
本体組み付けは二人以上で行ってください。

本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないように、注意してください。

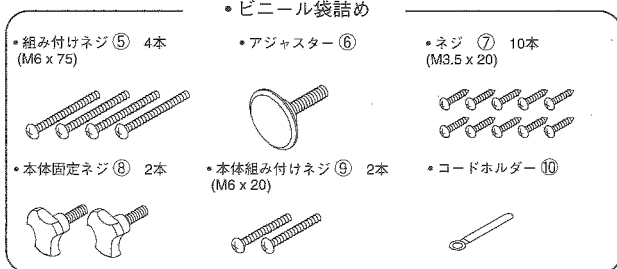
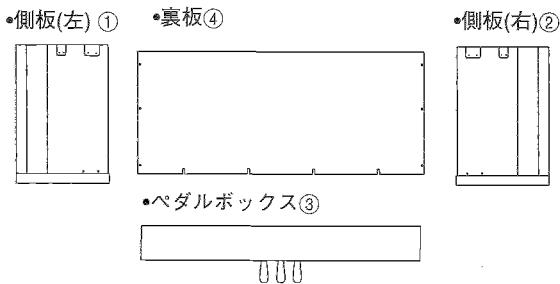
部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。

本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので注意してください。

### 1. お手持ちの+（プラス）ドライバーを用意します。

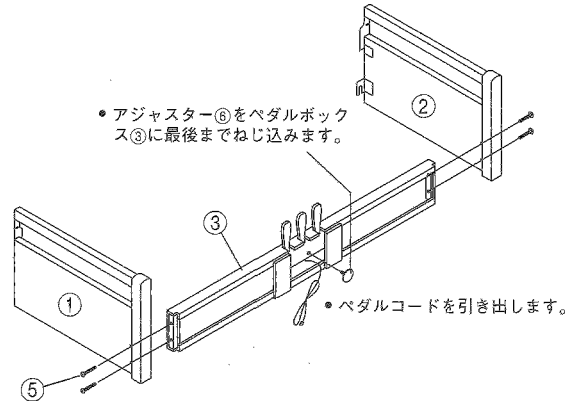


### 2. 下記部品が揃っているのを確認してください。

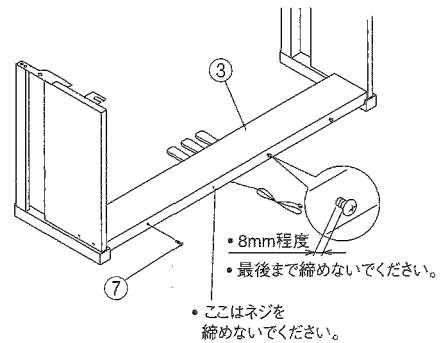


### 3. 組み立ては下図のように、スタンド背面側を必ず平らな床などに置いて行ってください。

側板(左)①と側板(右)②をペダルボックス③に組み付けネジ⑤4本で固定します。

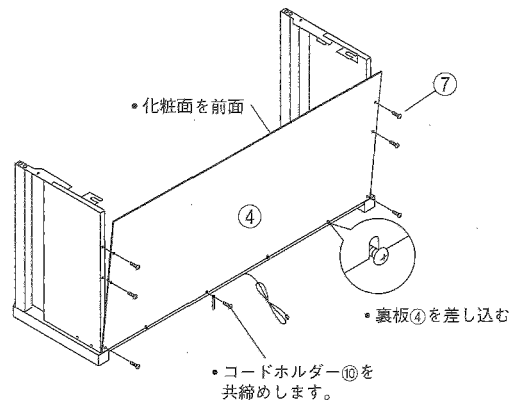


### 4. ネジ⑦3本をペダルボックス③に仮締めします。



### 5. 裏板④を組み付けます。

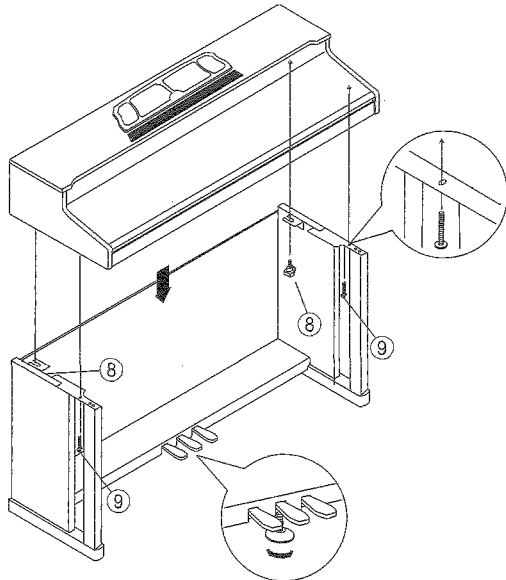
仮締めしたネジ⑦に裏板④を差し込みます。ネジ⑦6本で側板の下穴に合わせて裏板④を固定します。仮締めのネジ⑦3本を最後まで締めます。コードホルダー⑩をネジ⑦で固定してください。



## 6. 本体を組み付けます。

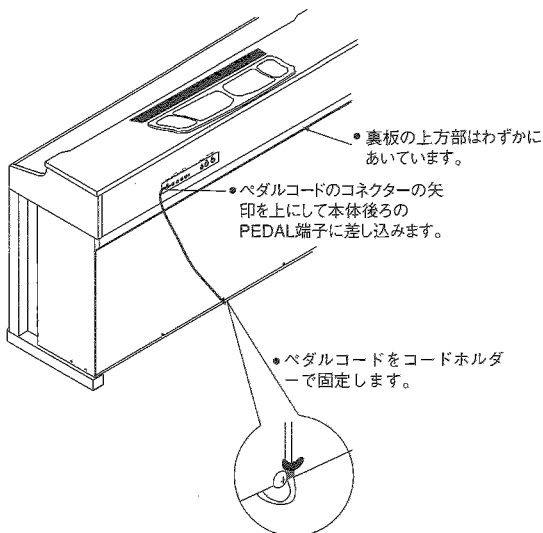
本体を本体底面とスタンドのネジ穴を合わせるようにして置きます。

本体固定ネジ⑧2本および、本体組み付けネジ⑨2本で下方から固定します。



- アジャスターを回して、アジャスターの底面が床にしっかり当たるように調節してください。アジャスターが床面にしっかり当たらないと、ペダルがぐらついたり、音がびりつくことがあります。

## 7. ペダルコードを接続し、固定します。



●裏板の上方部はわずかにあいています。

●ペダルコードのコンネクターの矢印を上にして本体後ろのPEDAL端子に差し込みます。

●ペダルコードをコードホルダーで固定します。

## 組立後のチェック

部品は余っていませんか？

余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。

取付ネジのゆるみのないことを確認してください。

## ⚠ 注意

### 移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。また移動時には次のことを注意してください。

- 電源コードは短く束ねてください。長い場合、コードが引っかかったりして、断線、ショートや破損の原因になります。
- ペダルコードをドアのノブなどに引っかけないように注意してください。

### ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには各ネジを締め直してください。

### 分解について

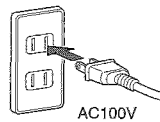
本体組み付け、スタンドの組立の逆の順番で分解してください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

## 演奏するための準備

### 1. 電源コードを差し込みます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

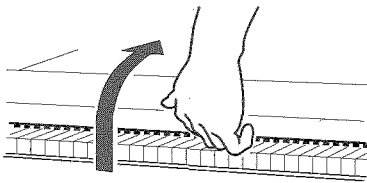
必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。



### 2. キーカバーを開けます。

へりの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。

キーカバーを閉じるときは、へりの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。



開閉中は指や手を挟まないように十分注意してください。

無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になることがあります。

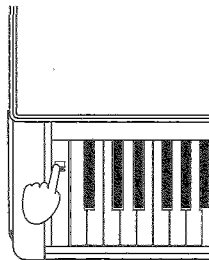
C-900のキーカバー開閉時はフロッピーディスクが中途半端に飛び出した状態で行わないでください。

### 3. 電源をオンにします。

1. 電源スイッチを押して、電源をオンにします。

電源をオンにすると、正面左側にあるPOWERランプが点灯します。

このときペダルの初期化を行っていますので、液晶画面に表示が出るまではペダルをふまないでください。

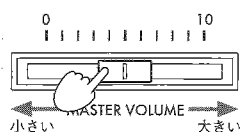


2. 電源をオフにするときはもう一度、電源スイッチを押します。

電源をオフにすると、正面左側にあるPOWERランプが消灯します。

### 4. 音量を調節します。

MASTER VOLUMEスライダーを中程まで上げておきます。スライダーを右に動かすと音量が大きくなり、左に動かすと音が小さくなります。“0”の位置では音が出ません。実際に弾きながら適度な音量に調節してください。



MASTER VOLUMEスライダーは、本体のスピーカーとヘッドホン端子、背面パネルのOUTPUT端子から出力される音量をコントロールします。

### ■ヘッドホンを使うときは

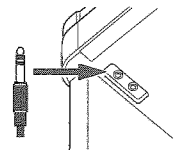
ヘッドホンを差し込むと本体のスピーカーからは音が出なくなります。

夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。

ヘッドホン端子は2つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。

本体左下側にあるヘッドホン端子に、ステレオヘッドホンのプラグ(標準プラグ)を差し込みます。

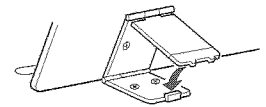
ミニ標準の変換プラグのついたヘッドフォンをご使用の場合、プラグを抜き差しするときは変換プラグ側の根本部分を持って抜いてください。



ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量のまま長い時間聴かないでください。

### ■譜面立てを使うときは

譜面立てを起こし、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。



## 2. フロッピー・ディスクについて

**C-900**では、付属のディスクCFD-01Pに自動伴奏のデータや音色プログラムのデータがはいっています。このデータは、必要に応じて**C-900**本体のディスクドライブにセットして、**C-900**で使用することができます。

また、市販の空ディスクを使用して、あなたの演奏を、テープ・レコーダーに録音するように(自動伴奏も含めて)データとして記録しておくこともできます。

さらに、記録しておいたデータや、スタンダードMIDIファイル形式で記録されている市販のミュージック・ディスクを**C-900**にセットして、**C-900**で再生(自動演奏)することもできます。

フロッピー・ディスクの使用時には、以下の注意をお守りください。ディスクの扱い方を間違えると、記録されているデータを失ってしまう恐れがあります。

### フロッピー・ディスクの種類とフォーマット

**C-900**では、2DDまたは2HDの3.5インチのフロッピー・ディスクを使用することができます。

買って来たばかりの新しいディスクや、他の機器で使っていたディスクを、そのまま使用することはできません。これらのディスクをはじめ**C-900**で使用する場合には、あらかじめフォーマットという処理をしておく必要があります。


フォーマットの方法については、活用ガイドのP.58「フォーマット・ディスク」の項を参照してください。

### フロッピー・ディスクの取り扱いについて

- ・ シャッター部分を開けたり、フロッピー・ディスク内の磁気面に直接触れないでください。磁気ディスクが汚れたり、傷つけるとデータの読み出し書き込みができなくなります。
- ・ フロッピー・ディスクをピアノ本体のディスクドライブに入れたまま、絶対に**C-900**を輸送しないでください。振動でディスクドライブのヘッドがフロッピー・ディスクを傷つけ、使用できなくなることがあります。
- ・ フロッピー・ディスクをテレビ、コンピューター、コンピューター・ディスプレイ、スピーカー、電源トランスなど磁気を発生する機器には近づけないでください。ディスクに記録されたデータが消えてしまうことがあります。
- ・ 高温、多湿の場所、直射日光のあたる場所、ゴミやホコリの多い場所での使用、保管は避けてください。
- ・ フロッピー・ディスクの上にものをのせないでください。
- ・ フロッピー・ディスクはケースに入れて保存してください。
- ・ ディスクドライブの動作中は、本体に衝撃を与えないようにしてください。

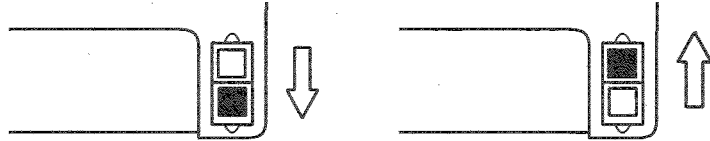
## フロッピー・ディスクのライトプロテクトについて

フロッピー・ディスクには、誤ってデータを消去してしまったり、書き換えてしまうことのないように「ライトプロテクト・ホール」という小さな窓がついています。

 ディスクに書き込んだデータを壊してしまわないように、セーブ後はタブを下げて「書き込み禁止の状態」にしてください。

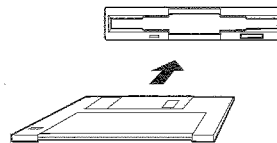
書き込み禁止の状態：  
ライトプロテクト・ホールが開いた状態になるようにタブを下げます。

書き込み可能の状態：  
ライトプロテクト・ホールが閉じた状態になるようにタブを上げます。




## フロッピー・ディスクの入れかた

フロッピー・ディスクのラベル面が上になるようにしてディスク・ドライブに入れてください。「カチッ」という音がして、ディスクが確実にドライブにセットされるまで挿入してください。無理に押し込むと故障の原因になりますので注意してください。ディスクを挿入する際は、ていねいに、まっすぐに挿入してください。

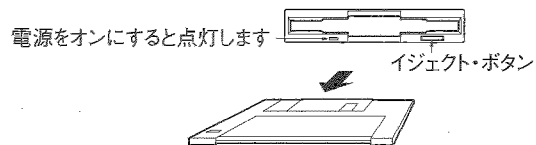


## フロッピー・ディスクの取り出しかた

フロッピー・ディスクをディスク・ドライブから取り出すときは、動作中でないこと(DISK/GLOBALキーのLEDが点滅していないこと、および画面に“Loading”や“Saving”といったメッセージが表示されていないこと)を確認してから、イジェクト・ボタンを押して取り出します。

 動作中にディスク・ドライブからフロッピー・ディスクを取り出すと、ディスク・ドライブやフロッピー・ディスクを壊す恐れがあります。


もしイジェクト・ボタンを押してもディスクが出てこない場合には、最寄りの楽器店あるいは(株)コルグ営業技術課にご相談ください。決して無理にディスクを取り出さないでください。



## ヘッドのクリーニング

ヘッドが汚れていると、セーブ、ロード時にエラーが発生する原因になります。このためヘッドは定期的にクリーニングする必要があります。ヘッドのクリーニングには、市販の湿式3.5インチ両面用ヘッド・クリーニング・ディスクを使用してください。片面用を使用すると、ドライブを傷める原因となります。

クリーニング方法はクリーニングディスクの取扱説明書を参照してください。

 長時間連続してクリーニングを実行するとディスク・ドライブを傷つける原因となりますので注意してください。



## 3.C-900に触れてみましょう

ここでは、はじめて**C-900**に触れる方のために、**C-900**の基本的な機能を、順を追ってのぞいてみましょう。

**C-900**のそばにこの本を置いて、ページをたどりながら、実際に操作を試してみてください。

表示が違っていても大丈夫

なお、液晶画面に現われる数値や、プログラムなどの名前が、この本に載っているものと、実際にあなたが操作するピアノの画面とでは、少しずつ異なっている場合もあるでしょう。これは、おもにその前の段階でどんな操作をしていたかによって変わってくるものですから、心配せずに操作を進めてください。

思い通りにいかなくなったら

もしも、操作の途中でどうしても思い通りにならないような袋小路に入り込んでしまったら、液晶画面の左側にあるEXITというキーを押してみてください。または、START/STOPキーを押して、START/STOPのLEDが消えている状態にしてみてください。そのときの状況によってどんな状態に戻るか、異なりはしますが、とりあえずふたたび操作を続けられる状態に戻るはずです。

# 1. C-900の鍵盤に触れて、音を出してみましょう

通常の電子ピアノとして、楽しんでみる

C-900には、自分で曲を作ったり、自動演奏したりなど、さまざまな機能がありますが、もちろん普通の電子ピアノとして楽しむことも可能です。まずは普通に、鍵盤に触れて音を出して試みることから始めてみましょう。

ここで、十分にC-900の音色を楽しんでから、次のステップに進むことをお勧めします。

## 1. ピアノ・モードに入ります。

アレンジメント・プレイ・モードに入る

ARR PLAYのLEDが点灯していれば、C-900はアレンジメント・プレイ・モードに入っています。


ピアノ・モードに入る

アレンジメント・プレイ・モードに入っている状態で、さらにPIANO MODEのLEDが点灯していれば、C-900は普通の電子ピアノとして使用することができます。この状態を、ピアノ・モードといいます。

ピアノ・モードでは、

- ・ プログラムを選んだときに、その音色に最適なエフェクトが自動的に設定されます。また、ペダル・シュミレーション(※活用ガイドP.51)が設定されます。
- ・ 鍵盤の中央より右(KB1とよびます)左(KB2とよびます)のミュート(消音)が解除され、鍵盤を弾けば音が出る状態になります。
- ・ キーボード・アサインはSINGLEに設定されます。
- ・ 表示の上の行に音色プログラムのグループ内の番号と音色の名前、下の行にテンポとメトロノームの拍子と音量が表示されるようになります。

C-900の電源を入れてすぐの状態では、自動的にピアノ・モードに入っているようになっています。

 スタンダードMIDIファイル(SMF)などのソング・プレイモードで演奏のできるディスクを入れた状態で電源を入れた場合、自動的にソングプレイモードに入ります。

アレンジメント・プレイ・モードに入っていないときは、操作パネルの右にあるARR PLAYキーを押してください。

→1. ARR PLAYのLEDと、PIANO MODEのLEDが点灯します。

→2. 液晶画面には、次のように表示されます。

現在C-900で使用できるようになっている音色のグループと番号、名前

ピアノ・モードの画面

```
KB1: Pf00 GrandPiano
J=120 METRO 4/4 L99
```

このような画面が表示されているとき、C-900はピアノ・モードに入っています。

もしもアレンジメント・プレイ・モードに入っている状態で、かつピアノ・モードに入っていないときは、液晶画面には、次のように表示されます。

現在C-900で使用できるようになっているアレンジメントの番号、名前

アレンジメント・プレイ・モードの画面

```

          番号      名前
ARR:   0 8 Beat 1
J=120
```

この場合は、操作パネルの右にあるPIANO MODEキーを押してください。

→1. PIANO MODEのLEDが点灯します。



- 2. KBD LOCKのLEDが点灯します。
- 3. 液晶画面には、ピアノ・モードの画面が表示されます。

2. ピアノ・モードに入ったら、鍵盤を自由に弾いてみてください。  
現在、画面に表示されている音色(プログラム)を聴くことができます。

音色プログラムを変更する



## 音色を変えてみる

鍵盤を弾くと出てくる音色(プログラム)を、一時的に変えてみましょう。

1. 操作パネル右側の、PROGRAM GROUPキーおよびPROGRAM SELECTキーをどれか、押してみてください。

- 液晶画面には、次のように表示されます。表示される音色のグループと番号・名前は、押したキーや、キーを押す回数によっても異なります。

いま選んだ音色プログラムのグループと番号、名前  
グループ 番号 名前

KB1:	Be01	Glocken
J=120	METRO	4/4 L99

C-900の音色は、全部で18のプログラム・グループにわかれています。それぞれのグループの中から、PROGRAM SELECTキーで音色を選ぶことができます。



2. 鍵盤を再び弾いてみてください。

さっきとは違った音色を聴くことができます。

## 鍵盤を二つに分ける

C-900は、鍵盤を任意の位置から、低い音域(左手の側)と、高い音域(右手の側)との二つの範囲に分けて使用することができます。鍵盤を分けて使用することで、右手側と左手側で、別々の音色を同時に弾くことができるようになります。この範囲は、弾く人が自分の使いやすいように、自由に設定することができます。

それでは、さっそくためしてみましょう。

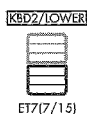


### 1. KEYBOARD ASSIGNをスプリットにします。

操作パネルの右側にある、KEYBOARD ASSIGNキーを何回か押して、LEDがSPLITという文字のところが点灯するようにします。

### 2. 左の鍵盤の音色をかえてみましょう。

液晶画面下のKBD2/LOWERの下キーを1回押します。  
表示が次のように変わります。



```
KB2: Pf00 GrandPiano
J=120 METRO 4/4 L99
```

次にPROGRAM GROUPキーのGUITAR/BASSキーを2回押してください。  
BASSの左のLEDが点灯していないときは、もう一度押します。

表示は次のように変わります。

```
KB2: Ba00 WoodBass
J=120 METRO 4/4 L99
```

中央のC4より左側の鍵盤がウッドベースの音で鳴るようになりました。右側の鍵盤は、ピアノの音です。

右側の音を変えたいときは、KBD1/UPPERのキーを押して、液晶画面の表示がKB2からKB1になったのを確認し、同様の手順で音を変えることができます。



### 3. 操作パネル左側にある、SPLIT POINTキーを押し続けてください。

→ 押し続けている間だけ、液晶画面は、次のような表示になります。

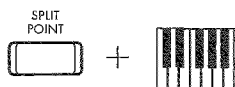


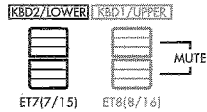
```
SPLIT:C4 XPOSE:0
LOWER UPPER
```

スプリット・ポイントの表示画面

この画面が表示されている状態で鍵盤上のどれか1つの鍵を押してSPLIT POINTキーを離すと、今押した鍵より左の音域がKB2の音色で、右がKB1の音色で鳴るようになります。

効果を確認したら、SPLIT POINTキーを押しながら鍵盤中央のC4キーを押して元に戻しておいてください。





### MUTEについて

KBD2/LOWERの上下に並んだ2つのキーを同時に押します。このとき、表示は次のようになります。この表示は約7秒で元に戻ります。

```
KB2: Ba00 WoodBass
Volume=127 ----- 0
```

これで、スプリット・ポイントより左側の鍵盤の音が出なくなります。

もう一度同じ操作をすると、また音が出るようになります。

PIANO MODEをオフしたときには、この左側の鍵盤の音を消した状態になります。そのときの選ばれるアレンジによって音が出る場合もあります。これは、自動伴奏のときは、コード入力をするために押さえた鍵盤の音が出ないようにするためです。

## 弾きやすく歌いやすく

C-900は、鍵盤で演奏するときの音程を、半音ずつまたは1オクターブずつ変更することができます。

歌や他の楽器と合わせて演奏するには低すぎたり高すぎたりするような曲を演奏する場合でも、音程を変更すれば、弾きやすい指使いで簡単に演奏することができるようになります。

### 1. OCTAVE UPのキーを押してください。

→1. 液晶画面は、次のような表示になります。



オクターブを変更する

```
KB1: Pf00 GrandPiano
Volume=103 UPPER+1
```

オクターブ表示

→2. 同時に、C-900の鍵盤を弾いたときの音程は1オクターブだけ高くなります。

オクターブは、OCTAVE UP、OCTAVE DOWNキーの操作で、-2～+2オクターブの範囲で変えることができます。

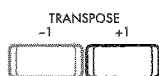
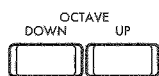
液晶画面の表示は、他にキーの操作をなにもせずにおくと、約7秒後に元の表示に戻ります。

上の状態で、繰り返しOCTAVE UPまたはOCTAVE DOWNのキーを押すと、オクターブ表示が  
+2 / +1 / 0 / -1 / -2

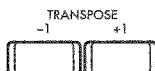
オクターブの設定が上下し、鍵盤を弾いたときの音程も変わるのがわかるでしょう。

## 2. TRANSPOSE +1のキーを押してください。

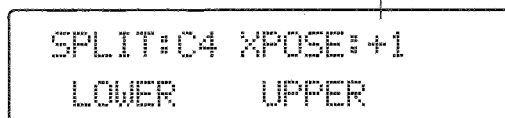
→1. 液晶画面は、次のような表示になります。



移調する



トランスポーズ表示



→2. 同時に、C-900全体の音程は半音だけ高くなります。

トランスポーズは、-1、+1キーの操作で、-11～+11の範囲で変えることができます

液晶画面の表示は、他にキーの操作をなにもせずにおくと、約7秒後に元の表示に戻ります。

前のP.15最下の表示の状態で、繰り返しTRANSPOSE +1またはTRANSPOSE -1のキーを押すと、トランスポーズ表示が以下のように変わります。

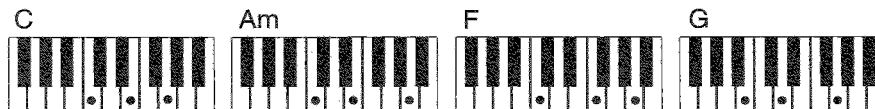
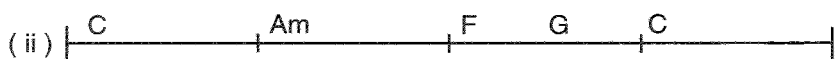
XPOSE: +1 / XPOSE 0 / XPOSE -1 ----

半音ずつ音程が上下し、鍵盤を弾いたときの音程も変わるのがわかるでしょう。

**例1)** 例えば、こんなコード進行の曲があったとします。ご覧のとおり、いずれも黒鍵を多く使うコードばかりです。トランスポーズ機能をつかって、これをもっと弾きやすい調に直すことができます。

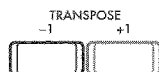


もし、曲の全体が半音4つ分高かったとすれば、コードはこのようになります。

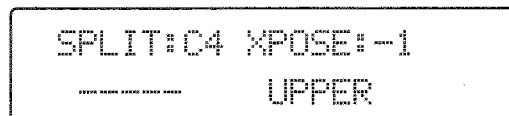


こちらのほうがずっと弾きやすくなりましたが、このまま弾くと当然もとの曲よりも半音4つ分高い音になってしまいます。

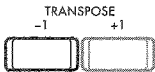
そこで、ピアノから出る音の高さを逆に半音4つ分だけ低くしましょう。



1. TRANSPOSE -1キーを1回押してみましょう。



## 2. さらに続けて、TRANSPOSE -1キーを3回押してみてください。

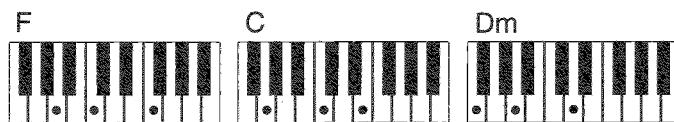


SPLIT:C4 XPOSE:-4  
----- UPPER

これでC-900の全体の音程は、半音4つ分だけ低くなったことになります。

この状態で(ii)の通りにコードを弾けば、(i)の高さで演奏できるというわけです。

**例2)** この曲ではどうも少し音が低くて歌いにくい、あと半音3つ分だけ高かったら歌いやすいのに、という場合はどうしたらいいでしょうか。



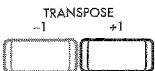
曲の全体を半音3つ分高くすると、コードはこのようになります。



ちょっと押さえるのに指使いの難しそうなコードになってしまいますね。

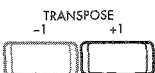
そこで、トランスポーズ機能を使って、ピアノから出る音の高さをそっくり半音3つ分高くしてみましょう。

## 1. TRANSPOSE +1キーを1回押してみましょう。



SPLIT:C4 XPOSE:+1  
----- UPPER

## 2. さらに続けて、TRANSPOSE +1キーを2回押してみてください。



SPLIT:C4 XPOSE:+3  
----- UPPER

これでC-900の全体の音程は、半音3つ分だけ高くなったことになります。

この状態で(iii)の通りにコードを弾けば、(iv)の高さで演奏できるというわけです。

## 2.C-900の自動演奏を聴いてみましょう

### デモ

デモ曲は、どのモードにいるときでも聴くことができます。

マスター・ボリュームは、初めは目盛1か2ぐらいのところに合わせておきましょう。

演奏が始まったら、聴きやすい音量になるように調節してください。

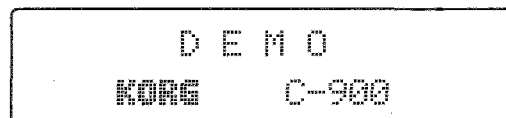


デモ演奏スタート

#### 1. 操作パネル右側のDEMOキーを押してください。

→1. DEMOキーのLEDが点灯し、ARRANGEMENT GROUPキーとPROGRAM GROUPキーのLEDが順番に点灯します。

→2. 液晶画面には、次のように表示されます。



→3. ARRANGEMENT GROUPキー、PROGRAM GROUPキー、またはSTART/STOPキーを押します。C-900のデモ曲が始まり、START/STOPキーのLEDが点滅します。演奏されるデモ曲については活用ガイドP.104を参照してください。

ARRANGEMENT GROUPキーを押したときはスタイルを使ったデモ曲が順番に演奏されます。1つのキーにはデモ曲が2曲割り当てられています。キーを1回押すと上段のアレンジメントグループ、キーを2回押すと下段のアレンジメント・グループにそれぞれ割り当ててある曲が演奏されます。

PROGRAM GROUPキーを押したときはクラシカルなデモ曲が順番に演奏されます。1つのキーにはデモ曲が2曲割り当てられています。キーを1回押すと上段のプログラムグループ、キーを2回押すと下段のプログラム・グループにそれぞれ割り当ててある曲が演奏されます。

START/STOPキーときは、スタイルを使ったデモ曲からクラシカルなデモ曲が順番にすべてのデモ曲が演奏されます。

#### 2. 演奏を途中で止めたいときには、点滅しているARRANGEMENT GROUPキーまたはPROGRAM GROUPキーを押してください。

START/STOPキーを押しても、演奏を停止させることができます。点滅していないグループキーを押したときはそのキーで選んだデモ曲が演奏されます。



デモ演奏ストップ

#### 3. デモ・モードから抜きたいときには、DEMOキーをもう1度押してください。

またはモード・キーのどれかを押すと、そのモードに移ります。



## ソング・プレイ

C-900は、スタンダードMIDIファイル(SMF)フォーマットのソング・データを、フロッピー・ディスクから直接ロードして手軽に再生することができます。

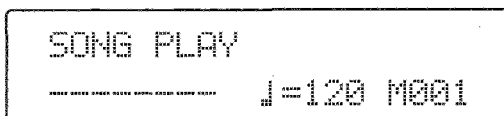


### 1. ソング・プレイ・モードに入ります。

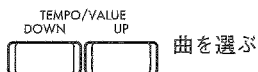
SONG PLAYのLEDが点灯していれば、C-900はソング・プレイ・モードに入っています。

もしもソング・プレイ・モードに入っていないときは、操作パネル右側にあるSONG PLAYキーを押してください。

- 1. SONG PLAYのLEDが点灯します。
- 2. 液晶画面には、次のように表示されます。

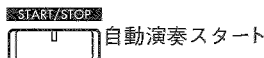


### 2. 液晶画面右の、TEMPO/VALUEのUPかDOWNのいずれかのキーを押してください。



- 1. ディスクのデータの名前がC-900に読み込まれます。
- 2. データの名前を読み込み終わると、ディスクに収められている曲の名前(ファイル名)が、液晶画面に表示されます。

UPキーを押すたびに、曲の名前が次々と表示されていきます。



### 3. 演奏したい曲が表示されたら、操作パネル左側のSTART/STOPキーを押してください。


(SMFフォーマット0のときは...)

START/STOPキーを押すと、すぐに演奏が始まります。

(SMFフォーマット1のときは...)

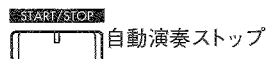
START/STOPキーを押すと、START/STOPのLEDが赤く早く点滅して、ディスクのデータを読み込みます。このとき、バッキング・シーケンスのデータを消去しますので、バッキング・シーケンスのデータをなくしたくない場合は、ディスクにセーブしてください。(活用ガイドP.57)

データの読み込みが終わると、演奏が始まります。

 フロッピー・ディスクのデータが読み込まれているときには、START/STOPのLEDが赤く速く点滅します。このときには、絶対にフロッピー・ディスクを取り出さないでください。無理に取り出そうとすると、フロッピー・ディスクやディスク・ドライブを傷つける原因となります。

テンポが変更できます。P.57「タップ・テンポ」、「テンポ/バリュー」

楽器ごとに、音量の調節ができます。P.58「ボリューム/ミュート」



### 4. 自動演奏を途中で止めたいときには、START/STOPキーを押してください。

## マイクを接続して歌ってみましょう

C-900にマイクを接続すればカラオケも楽しむことができます。オプションのKORG SMF/GMライブラリーや市販のSMF/GMデータを使って歌ってみてください。

1. 本体右側にあるMIC VOLUMEスライダーを“0”に下げます。
2. マイクを本体底面右側にあるマイク・インプット端子に接続します。  
(マイクにオン/オフスイッチがある場合はオンにします。)
3. マイクの音量をMIC VOLUMEスライダーで調節します。
4. エコーのかかり具合をECHO LEVELスライダーで調節します。
5. SMFのソングファイルが収録されているフロッピーディスクを、C-900のディスク・ドライブに挿入します。
6. ソング・プレイ・モードになっていない場合は、SONG PLAYキーを押します。



SONG PLAYキーのLEDが点灯します。



7. TEMPO/VALUEのUPキーまたはDOWNキーを1回押します。

ディスクを認識後、液晶画面にはフロッピーディスクに収録されているソングファイルの名前が表示されます。

8. UPキーまたはDOWNキーを押して、ソングのタイトルを選びます。

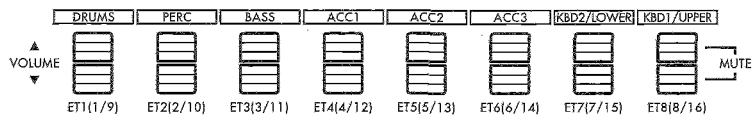
▲ オプションのKORG SMF/GMライブラリーはフォーマット0で保存されています。市販されているSMF/GMデータの多くも同様にフォーマット0で保存されています。そのためここではフォーマット0のソングファイルを再生する場合について説明します。フォーマット1のソングファイルを再生する場合はP.19を参照してください。

9. 歌(メロディ)のパートをミュート(消音)します。

歌のパートが見つからないときは、次のようにして確認してください。



- ① START/STOPキーを押して演奏を再生します。
- ② 操作パネル中央のVOLUME/MUTEキーをどれか1つ押して、パートのチャンネルを選びます。



- ③ 選んだチャンネルの▲キーと▼キーを同時に押して、そのチャンネルのパートをミュートします(P.15参照)。歌のパートが消えない場合はもう一度▲キーと▼キーを同時に押してミュートを解除してください。
- ④ 別のチャンネルのパートをVOLUME/MUTEキーを押して選び、ミュートして確認してみてください。このように次々にパートを確認して歌のパートをミュートします。
- ⑤ もしも1から8までのチャンネルの中に歌のパートが見つからなかったときには、SONG PLAYのキーをもう一度押してください。SONG PLAYキーのLEDが点滅して、今度は9から16までのチャンネルのパートが選べるようになります。今までと同じ手順でパートを確認して歌のパートをミュートします。
- ⑥ START/STOPキーを押して演奏を止めてください。

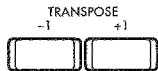


10. RESET/YESキーを押して最初の小節に戻します。



### 11. START/STOPキーを押して、演奏に合わせて歌ってください。

START/STOPスイッチのLEDがテンポに合わせて点滅します。



### 12. 音程が合わないときは、TRANSPOSEキーを押してキーを調節してください。

-1キーを1回押すたびにキーが半音ずつ下がり、+1キーを1回押すたびに半音ずつ上がります。

### 13. 演奏が終わったらSTART/STOPキーを押します。



本機能をご使用にならないときは、MIC VOLUMEスライダーおよびECHO LEVELスライダーを“0”に下げて、機器(マイク)をMIC INPUT端子から抜いておいてください。

MIC INPUT端子に接続した機器の音量を調節できるのはMIC VOLUMEスライダーだけです。MASTER VOLUMEスライダーではMIC INPUT端子の音量を調節できません。

MIC INPUT端子はモノラル端子です。シンセサイザーなどのステレオ出力の機器をつなげて、本体スピーカーから音を出したいときは、本体後ろ側にあるINPUT(L/MONO、R)端子に接続してください。

次の条件でご使用になりますとハウリング(ピン、またはワーンという発振音)を起こす場合がありますので、最適な状態に調整してご使用ください。

- ・マイクの特徴。
- ・マイクの向きが本体に向いている。
- ・マイクと本体の距離が近すぎる。
- ・マイク・ボリュームとエコーレベルの調整具合。



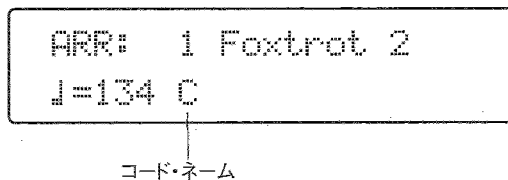




左手で伴奏をコントロールする

#### 4. 低いほうの鍵盤を、どれか押さえてみましょう。

→1. 液晶画面に、コード・ネームが表示されます。



上の画面は、押さえられた鍵盤が、Cメジャーのコードとして認識されたときの例です。

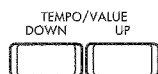
☞P.47「コード・スキャニング」

押さえるコードは、1つの鍵盤を押さえるだけでメジャー・コード、2つの鍵盤を同時に押さえるとマイナー・コードやsus4コードという具合に、省略した押さえ方ができます。完全な全ての構成音を押さえずともいいのです。

鍵盤をどのように押さえると、C-900がどんなコードとして判断するかは、活用ガイド巻末の付録「認識されるコード一覧」にまとめてありますので参照してください。

☞活用ガイド「付録C」

#### 5. 操作パネル左側の、START/STOPキーを押してください。



→1. リズムとベース、アカンパニメントの演奏が始まります。

→2. START/STOPのLEDは、スタイルの拍子にあわせて、1拍目は赤色に、その他の拍は緑色で点滅を続けます。

テンポが変更できます。☞P.57「タップ・テンポ」、「テンポ/バリュー」

鳴り始めたベースとアカンパニメントは、あなたが押さえた鍵盤をC-900が分析して、何らかのコードとして判断し、そのときのアレンジメントをそのコードにあわせて自動演奏しているのです。

鍵盤から離しても、そのコードとベースが次に鍵盤を押さえるまでは鳴り続けます。

☞P.47「コード・ホールド」

#### 6. コードをいろいろと押さえながら、右手側の高いほうの鍵盤で、自由にメロディを弾いてみましょう。

楽器の音色を変えることができます

☞P.54「プログラム・グループ」、P.54「プログラム・セレクト」

楽器の音色ごとに、それぞれ音量が調節できます。☞P.58「ボリューム/ミュート」

いかがですか。C-900で伴奏をつけながらご自分で演奏できるしくみが体験いただけたでしょうか。



#### 7. 演奏を止めたいときには、START/STOPキーをもう1度押してください。

## シンクロ・スタート

弾き始める前に、いちいちSTART/STOPキーを押さなくても、鍵盤を弾いた瞬間に、アレンジメント・プレイがスタートするようにできます。



1. アレンジメント・プレイが停止している状態で、操作パネル左側の**SYNCHRO START/STOP**キーを押してください。

→ SYNCHRO START/STOPのLEDが点灯します。



2. 低い方の鍵盤で、コードを押さえてみましょう。

→1. 鍵盤を押さえると同時に、アレンジメントの演奏が始まります。

→2. 演奏が始まると同時に、SYNCHRO START/STOPのLEDが消えます。

## シンクロ・ストップ

鍵盤から手を離すと同時に、アレンジメント・プレイがストップするようにできます。



1. アレンジメント・プレイが演奏を続けている間に、**SYNCHRO START/STOP**キーを押してください。

→ SYNCHRO START/STOPのLEDが点灯し、演奏がストップします。



2. SYNCHRO START/STOPのLEDが点灯している状態で、低い方の鍵盤で、コードを押さえてみましょう。

→ 押さえたコードにしたがって、アレンジメントの演奏がスタートします。

3. 低い方の鍵盤を、押えるのをやめてください。

→1. ただちに演奏がストップします。

→2. SYNCHRO START/STOPのLEDは点灯し続けます。

この状態から、低い方の鍵盤を押さえると、再びアレンジメントの演奏が始まります(シンクロ・スタート)。鍵盤から手を離すと、再びただちに演奏がストップします(シンクロ・ストップ)。

4. シンクロ・ストップを解除するには、**SYNCHRO START/STOP**キーをもう1度押してください。

→ SYNCHRO START/STOPのLEDが消えます。



これで、通常どおりSTART/STOPキーで、アレンジメント・プレイのスタート/ストップを行えるようになります。

## タップ・テンポ ☞P.57

キーをたたいた速さで自動演奏



アレンジメント・プレイの演奏テンポは、液晶画面の右側にある、TEMPO/VALUEのUPキーとDOWNキーを使って速くしたり遅くしたりすることができますが、もっと簡単に感覚的に、TAP TEMPOキーをたたき速さにあわせて、演奏テンポを設定することもできます。

また、TAP TEMPOキーだけでなく、別売のアサイナブル・ペダル/スイッチや、エクスターナル・コントローラーEC5を踏み込む速さにあわせて、テンポを設定することもできます。

☞活用ガイドP.63「ペダル機能」

## キーボード・ロック ☞P.52

テンポや音色が変わらないように



アレンジメント・プレイで演奏される楽器の音やテンポは、それぞれのアレンジメントごとに最も適した設定になっています。ですから、演奏の途中でアレンジメントを別のものに切り替えると、演奏のテンポや、鍵盤で弾いていた楽器の音もそれに合わせて新たな設定に変わってしまいます。

テンポや鍵盤の音を変えないで、アレンジメントを次々に切り替えながら演奏したいときには、操作パネル左側のKBD LOCKキーを押してKBD LOCKのLEDを点灯させておいてください。

## 4. 自分の演奏を、C-900に録音して聴いてみましょう

テープレコーダー感覚で演奏を録音

C-900は、ちょうどテープレコーダーを使って録音するのと同じように、自分の演奏を、もちろん伴奏も含めてそっくり記録しておくことができます。以下の手順で、演奏を録音してみましょう。

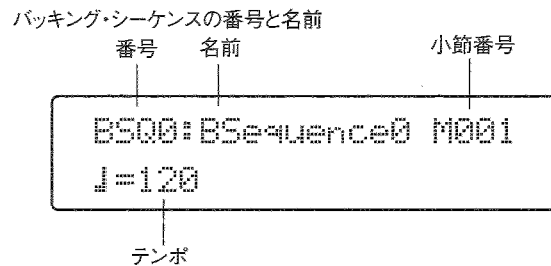


### 1. BACKING SEQ(バックング・シーケンス)モードに入ります。

BACKING SEQのLEDが点灯していれば、C-900はバックング・シーケンス・モードに入っています。

もしもバックング・シーケンス・モードに入っていないときは、操作パネル右側にあるBACKING SEQキーを押してください。

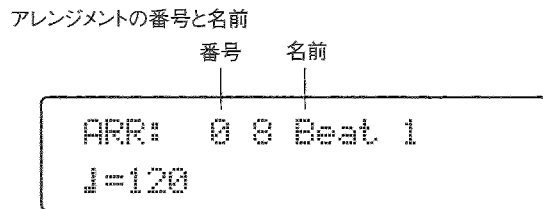
- 1. BACKING SEQのLEDが点灯します。
- 2. 液晶画面には、次のように表示されます。



アレンジメントを選ぶ

### 2. 操作パネル左側のARRANGEMENT GROUPキーおよびARRANGEMENT SELECTキーで、演奏するのに使いたいアレンジメントを選んでください。

→ 液晶画面は、アレンジメントの表示に変わります。



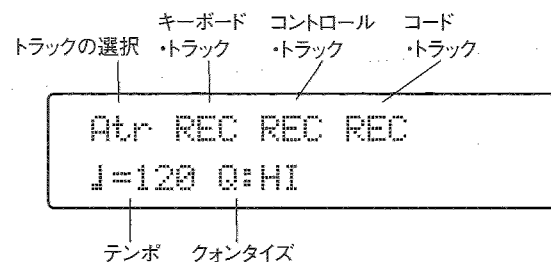
#### <自動伴奏をつけないで録音したいときは…>

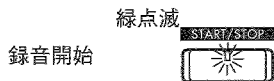
ここでPIANO MODEのキーを押しておくで、自動伴奏のつかないあなたの演奏だけを録音することができます。このときには、PIANO MODEのLEDが点灯して、ARR GROUPのLEDが消えます。また、液晶画面には、“Acc Mute”というアレンジメント名が表示されます。この状態を解除するには、他のアレンジメントをどれか選択してください。

### 3. 操作パネル左側のBACKING SEQ RECキーを押します。

- BACKING SEQ RECのLEDが点灯します。
- 液晶画面には、次のように表示されます。


録音の準備





#### 4. それではいよいよ録音を始めましょう。START/STOPキーを押してください。

→1. 液晶画面には、次のように表示されます。



B500: BSequence0 M-2  
J=120

→2. メトロノームのカウントが2小節鳴ったあとで、アレンジメントがスタートします。

どうぞ、弾き始めてください。演奏がそのまま録音されていきます。自動伴奏がついているときには、自動伴奏も一緒に録音されます。

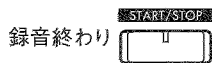
→ START/STOPのLEDは、アレンジメントの拍子にあわせて、1拍目は赤色に、その他の拍は緑色で点滅します。



#### 5. 録音を止めたいときには、START/STOPキーをもう1度押してください。

→ BACKING SEQ RECのLEDが消えます。

→ 小節番号が001に戻ります。



#### 6. さっそく、いま録音した演奏を聴いてみましょう。

START/STOPキーをもう1度押すだけで、録音した演奏が最初から再生されます。

最後まで再生し終わると、自動的にストップし、小節番号が001に戻ります。



#### 7. 録音をやり直したいときは、もう1度BACKING SEQ RECキーを押せば、再び録音の準備の状態に戻ります。

あとは4以下同様の手順で、何度でも録音をやり直すことができます。

### 演奏を保存しておきたいときは...

このバックিং・シーケンス・モードで録音した演奏は、C-900の電源を切ると消去されてしまいます。



この演奏を保存しておきたいときには、フロッピー・ディスクに演奏データをセーブしておきましょう。

☞活用ガイドP.57「セーブ」



## 5. 演奏データをさらに完璧なものに 仕上げることができます

さらに細かな修正ができる

C-900に1度録音した演奏データは、あとから何度でも修正することができます。

C-900では演奏し直さないで、必要ならば音符1つ1つという非常に細かな単位で音程や、微妙なタイミングのずれを直すこともできます。

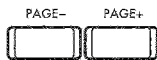
この機能を使って、より完璧な演奏データを仕上げるすることができます。

イベントを覗く

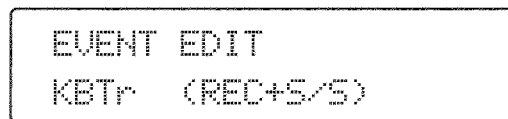
このような複雑な機能を最初から使いこなすのは難しいことです。まずここでは、あなたが演奏した1つ1つの音符がどんなふうに記録されているのかをみてみましょう。

### 1. バッキング・シーケンス・モードで、C-900になにか演奏データを記録しておきます。☞P.25

もちろん「4. 自分の演奏を、C-900に録音して聴いてみましょう」のときに録音しておいたデータが残っていれば、そのままでも構いません。

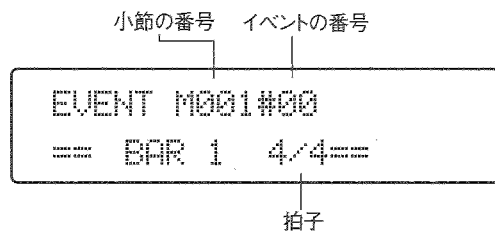


### 2. PAGEの+キーまたは-キーを押して、液晶画面に下の表示が出るようにしてください。



### 3. BACKING SEQ RECキーを押し、続いてSTART/STOPキーを押してください。

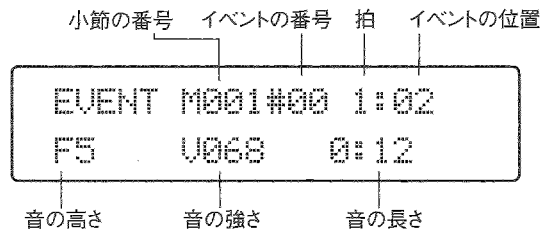
→ 液晶画面の表示は、次のようになります。



BAR 1 というのは、ここから1小節目がはじまりますよ、というしるしです。

### 4. イベントの番号にカーソルを合わせてTEMPO/VALUEのUPキーを1回押してみてください。

→ 液晶画面の表示は、次のようになります。



これが、いま記録されている演奏データの、一番最初に録音された音のデータです。

和音のように、同時に演奏された音でも、1つ1つの音がこのような形で記録されています。この画面に出ているさまざまな数値を、1つ1つの音ごとに調節して、音程や、音の長さや強さ、微妙なタイミングのずれを修正していくことができます。

データの修正のしかたについては、活用ガイドのイベント・エディットのページを参照してください。☞活用ガイドP.32「イベント・エディット」

## 6. 音符を1つずつ入力して、演奏データを作ることができます

実際に鍵盤を弾いて録音しなくても、ひとつひとつの音符を、音の高さや長さ、強さのデータとして入力していくステップ・レコーディングについて説明します。

音符を1つずつ入力する



アレンジメントを選ぶ

ARRANGEMENT SELECT

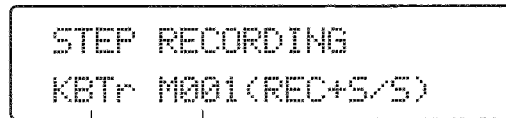


ステップ・レコーディングのページを開く



当然、直接鍵盤を弾くのに比べて時間はかかりますが、逆に鍵盤になれていない方でも、タイミングのずれや弾きまちがいを気にせず、正確な演奏データを作ることができます。

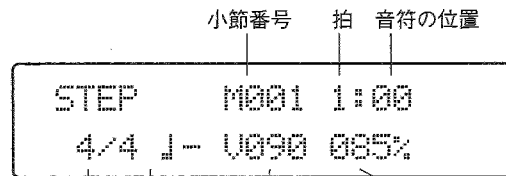
1. バッキング・シーケンス・モードに入ります。
2. 操作パネル左側のアレンジメント・グループおよびアレンジメント・セレクトのキーで、演奏するのに使いたいアレンジメントを選んでください。
3. PAGEの+キーを押して、ステップ・レコーディングのページを開きます。  
→ 液晶画面には、次のように表示されます。



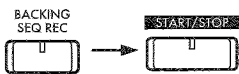
トラック 小節番号

4. BACKING SEQ RECキーを押し、続いてSTART/STOPキーを押してください。

→ 液晶画面には、次のように表示されます。



小節番号 拍 音符の位置  
拍子 音符の長さ 音の強さ (ベロシティ) 音の長さ



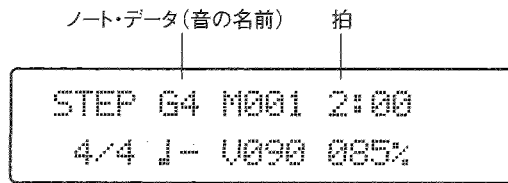
液晶画面をみると、いま第1小節目の1拍目の一番最初に、四分音符を、ベロシティ90の強さで、四分音符1つ分の85%の長さで入力できますよ、という意味のことが表示されています。



### 5. それではその1拍目を、さっそく入力してみましょう。

鍵盤で何か1回だけ、好きな音を弾いてみてください。1回だけであれば、1つの音でも和音でもかまいません。

→ 鍵盤から手を放すと液晶画面の表示は、次のようになります。



ここに表示されるのは、いま弾いた音(和音であれば、そのうちの1つの音)の名前です。

上の画面はG4の音を弾いたときの例です。

同時に、拍の番号が1つ増えています。これでもう、すでに2拍目に次の音を入力できる状態になっているというわけです。

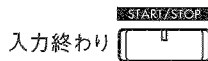


### 6. 続けて、どんどん弾いてみましょう。

鍵盤を1回押さえて離すたびに、拍の番号が1つずつ増えていくのがわかるでしょう。

選んでおいたアレンジメントの拍子にもよりますが、この例では4/4拍子になっていますから、1小節は4つの拍でできています。ですから、4拍目を入力すると、今度は小節の番号が1つ増えて、次の小節の1拍目に進みます。

### 7. ある程度入力したら、START/STOPキーを押してください。

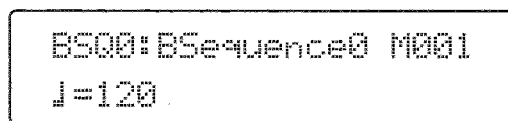


### 8. それでは、ここまで入力したものを聴いてみましょう。

EXITキーを押してください。



→ 液晶画面は、下の表示に戻ります。



START/STOPキーをもう1度押すと、最初から再生されます。

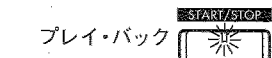
最後まで再生し終わると、自動的にストップし、小節番号が001に戻ります。

いまの例では、入力した音は全て四分音符、ベロシティも音の長さも全て同じ値に設定されたままで入力していききました。

当然のことながら、これら音の長さや強さなどの設定は、一音一音入力するそのたびに、さまざまな値に変更することができます。そうやって入力が続けていけば、いくらでも複雑なリズムや強弱をもった演奏データを作ることができるわけです。

また、コード・トラックに、アレンジメント・プレイのときと同様の簡単な操作で、ベースやアカンパニメントの元となるコードを入力することができます。

これらの設定のしかたについては、活用ガイドのステップ・レコーディングのページを参照してください。☞活用ガイドP.21「ステップ・レコーディング」



インタラクティブ・コンポジション

## 7. メロディだけを演奏して、C-900に自動的に伴奏をつけさせることができます

メロディを弾くだけで自動的に伴奏がつけられる



アレンジメントを選ぶ



C-900のインタラクティブ・コンポジションは、あなたが思いついたメロディをC-900の鍵盤で弾くと、そのメロディをC-900が分析して自動的にコード(和音)を決め、そのコードに基づいて自動的に伴奏のペースとアカンパニメントが演奏される、という機能です。

### 1. ARR PLAY(アレンジメント・プレイ)モードに入ります。

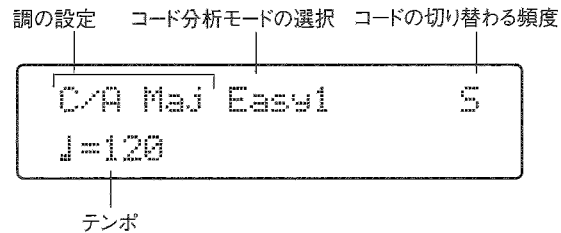
ここでピアノ・モードに入っているときは、ピアノ・モードを解除しておく必要があります。もしもピアノ・モードに入っているときは、操作パネル右側にあるPIANO MODEキーを押してLEDを消灯させてください。

### 2. 演奏を始める前に、何かアレンジメントを選んでおきましょう。テンポはあらかじめ弾きやすい速さに変更しておくといでしょう。

### 3. 操作パネル右側のINTERACTIVE COMP.キーを押してください。

→ INTERACTIVE COMP.のLEDが点灯します。

→ 液晶画面には、次のように表示されます。



### 4. 操作パネル左側の、START/STOPキーを押してください。

→ アレンジメントの演奏が始まります。



スタート



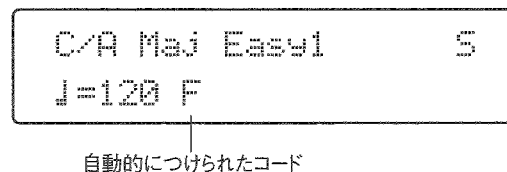
### 5. 鍵盤の右手側で、何かメロディを弾いてみてください。

まずは白鍵のみで弾いてみましょう。

音符を短めに(歯切れよく)弾くのが、メロディをうまくC-900に分析させるコツです。

→ メロディに自動的にコードがつけられ、自動伴奏が演奏されます。

→ 液晶画面には、インタラクティブ・コンポジション機能によってつけられたコードが表示されます。



曲想やキーを指定することによって、コードのつけられ方を変えることができます。

☞P.38「キー」、「メジャー/マイナー」

つけられるコードの傾向を、幾つかのパターンのなかから選ぶことができます。

☞P.38「ICタイプ」

曲の中でコードが変わる頻度を選ぶことができます。

☞P.39「コード・フォロー」

演奏をあらかじめC-900に録音しておいて、あとからメロディ分析を行うことによって、より違和感の少ないコードをつけることができます。☞P.40「バックング・シーケンスIC」

# 4. C-900の基本コンセプト

## 1. モードとページ

モードとは

### モードとは

C-900を説明するなかで、モードという言葉があちこちに出てくるのにお気づきになったでしょうか。

“MODE”という言葉の辞書をひいてみると、「様式」とか「方式」を意味する、と書いてありますね。

C-900の中では、モードとは「ある一連の操作ができる状態」あるいは、「ある一連の機能が働く状態」という意味で使われています。またはもっと簡単に、ただ「状態」という意味だと考えてもよいでしょう。

たとえば、アレンジメント・プレイ・モードといえば、実際にC-900の鍵盤でメロディやコードを弾いて演奏を楽しむことのできる「状態」のことをいいますし、あるいは、バックイング・シーケンス・モードといえば、C-900でお好みの曲や伴奏を組み立ててゆ�ために、音色や音の高さや音の長さなどを設定する機能が働いている「状態」のことを呼ぶわけです。

単純にC-900のモードといえば、モード・キーを押して選択することができる4つのモード...**アレンジメント・プレイ・モード、バックイング・シーケンス・モード、ディスク/グローバル・モード、ソング・プレイ・モード**のことを意味します。そして、アレンジメント・プレイの中でも、特にピアノとしての演奏に適した状態を**ピアノ・モード**として設定することができます。

それぞれのモードにあるときには、モード・キーのLEDが点灯して、そのモード(状態)にあることを示します。

モードに入る

いずれかのモード・キーを押したりして、あるモード(状態)にすることを、そのモードに「**入る**」といいます。

また、あるモードに入っている状態から(他のモード・キーを押したりして)別のモードに移ることを、そのモードを「**抜ける**」といいます。

## ページとは

C-900は、アレンジメント・プレイ、バックキング・シーケンス、ソング・プレイ、ディスク/グローバルのそれぞれのモードごとに、さまざまな機能をもっています。

これらの機能は、モードごとにいくつかの表示画面に分けて、液晶画面上に表示されるようになっています。

ページとは

このように、モードの中で、機能ごとに分けられた表示画面の1つ1つを、「ページ画面」と呼びます。

PAGEキーでページを繰る

あるモードの特別な機能を働かせたいときには、まずそのモードで、働かせたい機能が表示されているページを選択する必要があります。



1. 液晶画面の右にあるPAGEの+ (プラス) キーまたは- (マイナス) キーを押すたびに、ページ画面は順に切り替わります。

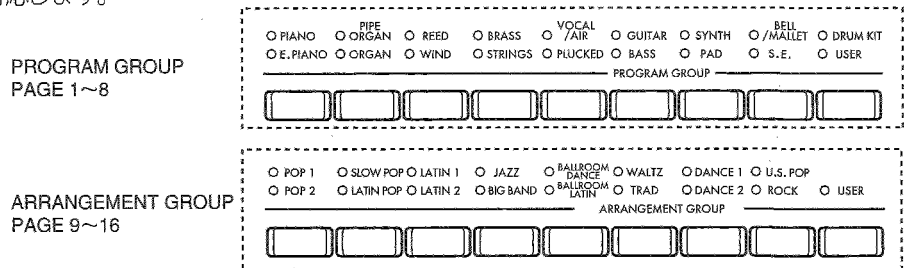
目当ての機能のページ画面が現われるまで、これらのPAGEキーを繰り返し押してください。選ばれているモードのキーを押すと、いま開いているページ番号が表示されます。

ページ番号を直接指定

2. 目当てのページが、そのモードの何番目にあるかが初めからわかっているときには、その何番目かを表わすページの番号を指定することによって、そのモードの特定のページを即座に表示することができます。

PROGRAM GROUPの8つのキーは、それぞれ、ページ番号の1、2、3、.....8に対応します。

また、ARRANGEMENT GROUPの8つのキーは、それぞれ、ページ番号の9、10、11、.....16に対応します。



ページを「開く」

目当てのページを表示させるには、そのモードのキーと、ページ番号に対応するARRANGEMENT GROUPのキー、あるいはPROGRAM GROUPのキーを同時に押してください。

モードを移動したときは...

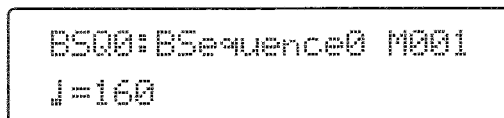
このように、あるページを表示させることを、そのページを「開く」といいます。

\* あるモードで表示されているページの番号は、他のモードへ移動しても、C-900の電源をオフにしない限り、モードごとに保持されます。

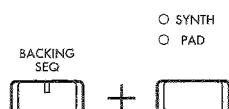
たとえば、いまアレンジメント・プレイ・モードの7ページ目が表示されている状態から、



BACKING SEQキーを押して、バックキング・シーケンス・モードへ移動したとします。



バックング・シーケンス・モードの7ページ目を開いて、



○ SYNTH  
○ PAD

```
SHIFT NOTE
KBTr 001=001 Sh=+00
```

ここで、ARR PLAYキーを押して、再びアレンジメント・プレイ・モードへ戻ってみましょう。さて、何ページ目が表示されるでしょうか。



```
28:Exciter      58
01:Hall         FX
```

先ほどのバックング・シーケンス・モードへ移る前と同じ、7ページ目が開いた状態になっているでしょう。

また、ここから再びバックング・シーケンス・モードへ移動してみると、



```
SHIFT NOTE
KBTr 001=001 Sh=+00
```

こちらも前と同じ、7ページ目が開いていますね。それぞれのモードのページ番号が、他のモードへ移動しても、保持されるようすがわかりいただきましたが。

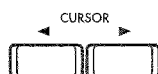
即座に最初のページに戻る

\* 全てのモードで、どのページを開いているときでも、液晶画面左のEXITキーを押すと、それぞれのモードの一番最初のページを表示することができます。

☞P.49「エグジット」

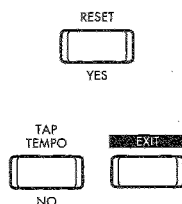
サブページ

ページ画面の中から、さらにページ画面を選択できるようになっている場合があります。このように、ページの中にあるページを、「サブページ」と呼びます。



```
EDIT 1 (Press Yes)
(DEL) (INS) (ERASE)
```

小節の削除 小節の挿入 小節の消去



上の画面で、下の行のカッコの中に表示されている文字がサブページを表わします。これらの文字にカーソルを合わせてRESET/YESキーを押すと、それぞれのサブページが開くようになっています。サブページからもとのページへ戻るには、EXITキーか、TAP TEMPO/NOキーを押してください。

## 2. スタイル/アレンジメント/プログラム

### アレンジメントとは

アレンジメント

スタイルと、二つのキーボード・ティンバーの設定(シングル、レイヤー、スプリットなど)をあわせて、アレンジメントと呼びます。

**C-900**には、16のグループに分類された、128種類のプリセット・アレンジメントと、64のアレンジメントを含むユーザー・グループ1つがあります。

それぞれのアレンジメントには、プログラム(楽器の音色)、ボリューム、パン、エフェクト、テンポ、ミュートといった、さまざまな設定項目があります。

ユーザー・グループにある64個のアレンジメントは、これらの設定を変更したものを記憶させたり、別売のサウンド/ソング・ライブラリーのフロッピー・ディスク(XIPシリーズ、IFDシリーズ)からまったく新しい設定データをロードして使用することができます。

スタイル

曲や伴奏を組み立てるための音楽の素材を**C-900**ではスタイルと呼んでいます。

スタイルは、ロックやポップス、民族音楽など、古今東西のさまざまな音楽の典型的なパターンを集めたものです。

どのスタイルも、その1つ1つに、それぞれ4つのバリエーション、2つのイントロ(前奏)、2つのエンディング(後奏)、2つのフィル・インをもっています。

つまり、スタイルとは単なる伴奏パターンやリズムパターンの断片というだけではなく、もし1つのスタイルを選べば、その中には、そのまま一曲を構成できるだけの材料が全て盛り込まれているわけです。

さらに、スタイルは、**C-900**の鍵盤からのコード情報を受けて、そのときそのときのコードにあった伴奏パターンに作り替えられる柔軟性をもっています。

スタイル・エレメント

スタイルを作っているバリエーション、イントロ、フィル・イン、エンディングなどといったこれらの材料を、スタイル・エレメントと呼びます。

スタイルは、ドラム(ポピュラー・ミュージックを中心に幅広く使用される一般的なドラム・セット)、パーカッション(ドラム以外の打楽器全般)、ベース(低音楽器)、アカンパニメント(一般的な伴奏楽器)1、アカンパニメント2、アカンパニメント3という、全部で6つの演奏トラックからできています。

バックিং・トラック

これらの演奏トラックは、伴奏全般を受け持つという意味で、バックিং・トラックと呼びます。

### プログラムとは

プログラム

**C-900**で奏でることのできる様々な楽器の音色のことを、プログラムと呼びます。

**C-900**では、ユーザー・グループ1つを含む18のグループに386種類のプログラムが内蔵されています。

このうち、ユーザー・グループにある64種類のプログラムとDr 19、Dr 20は、別売のディスクに収められているプログラム・データをロードしたりすることができます。



## 5.画面をみながらC-900を操作してみよう

ご覧のとおりC-900には、演奏をしながらでも、その演奏にいろいろな効果を加えたり、変更したりするためのキーが、パネル上に並んでいます。しかしそれ以外にも、液晶画面に現われる、よりさまざまな項目を調節したり設定することによって、さらに多くの機能を活用することができます。

ここでは、画面上に現われる項目の設定や選択のしかたをみてみましょう。

### 1.カーソルを動かしてみよう

カーソルのはたらき

液晶画面では、1つの画面上で、数値やオン/オフなどを設定できる項目が、同時にいくつか表示されることがあります。

このような場合、どれか1つの項目の設定部分の下に、小さな横線(カーソル)が点滅しているのに気がついたでしょう。

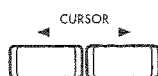
このカーソルで指示されている項目が、そのとき設定を変更することができることを表わしています。

カーソルの移動

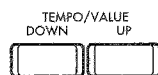
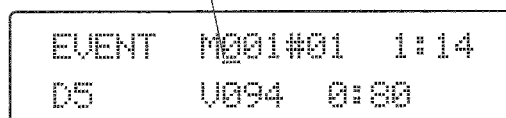
液晶画面の右側にあるCURSORキーを押すと、カーソルは、画面の設定項目の下を順に移動します。

CURSORキー▶を押すと、カーソルは左から右へと移動します。

CURSORキー◀を押すと、カーソルは右から左へと移動します。



カーソル



変更したい項目にカーソルをあわせたら、液晶画面の右側のTEMPO/VALUEのUPキーあるいはDOWNキーを押してください。押すたびに、カーソルで選択されている項目の設定が順に変わっていきます。P.36「音の大きさ」や「速さ」を調節するには

項目によっては、TEMPO/VALUEキー以外のキーや、鍵盤を使って設定できるものもあります。これらの操作については、それぞれのモードや表示画面についての説明を参照してください。

このようにして、液晶画面に表示された項目をカーソルで指定することによって、C-900の機能に関するさまざまな設定を変更することができるというわけです。

別な言い方をすれば、液晶画面上でカーソルをその下に移動することができる項目はどれでも、TEMPO/VALUEキーを使ってその設定値を変更することができる、ということです。

## 2. 「音の大きさ」や「速さ」を調節するには

数値や項目を設定・選択する



たとえばドラムの音だけ少し大きくしたいとか、あるいは自動演奏のときのテンポをもう少し遅くしたい、というふうに、液晶画面に表示される数値を調節したいという場合があります。

あるいは、エフェクトの選択ページや、レコーディングのページのように、使用したいエフェクトを指定する、あるいはレコーディングしたいトラックを指定する、というように、いくつかの設定候補がある中から、そのうちのどれかを選択したいという場合があります。

このような場合に使用されるのが、TEMPO/VALUEキーです。TEMPO/VALUEキーは、アレンジメントの演奏テンポや、液晶画面上のカーソルで指定されたさまざまな設定値を変更するのに使います。

DOWNキーを押すたびに、選択されている項目の数値が1つずつ減っていきます。あるいは、選択されている候補の1つ前の候補が順に表示されていきます。DOWNキーを押し続けると、数値は連続的に減っていきます。あるいは、前の候補が次々に表示されていきます。

UPキーを押すたびに、選択されている項目の数値が1つずつ増えていきます。あるいは、選択されている候補の次の候補が順に表示されていきます。UPキーを押し続けると、数値は連続的に増えていきます。あるいは、つぎの候補が次々に表示されていきます。

DOWNキーとUPキーを一緒に押すと、選択されている項目はその項目を選択したとき(その項目にカーソル移動させた時点)の設定値にリセットされます。

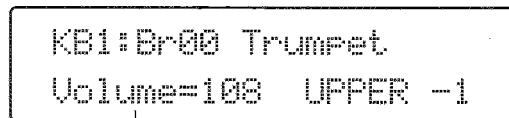
ただし、バックイング・シーケンスのテンポなど、一部リセットされない項目もあります。

音量を調節するキー



特に、アレンジメントやバックイング・シーケンス、SMFソング・データなどを演奏するときに、トラックごとに、あるいはチャンネルごとにボリュームを調節したいという場合には、8対のVOLUME/MUTEキーを使います。これは、対応するトラックやチャンネルごとにボリュームのアップ/ダウンを行うもので、操作はTEMPO/VALUEキーとほとんど同じです。

たとえば、KB1の▲キーを押した場合には、次のような画面が表示されます。



ボリューム (音量)

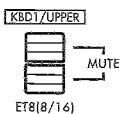
そのまま、▲キーを押し続けると、Volume#の数字が大きくなっていき、同時にKB1の音量も大きくなっていきます。

▼キーを押したときにも、同じ画面が表示されます。



この場合は、▼キーを押し続けると、Volume#の数字が小さくなっていき、同時にKB1の音量も小さくなっていきます。

VOLUME/MUTEキーの動作がTEMPO/VALUEキーと異なるのは、アップとダウンの二つのキーを一緒に押したときです。TEMPO/VALUEキーは、一緒に押すともとの設定値にリセットされるのに対して、VOLUME/MUTEキーではそのトラック(チャンネル)のミュート、およびミュートの解除を交互に行います。



設定値の調節や変更を行うのは、TEMPO/VALUEキーやVOLUME/MUTEキーではありません。たとえば、バックイング・シーケンス・モードのステップ・レコーディングなどで、コードや音符の種類を指定する場合などは、スタイル・エレメント・キーや鍵盤を使って、より簡単に設定をすることもできます。これらの操作については、それぞれのキーや、活用ガイドのそれぞれのモードの説明を参照してください。

## 6. インタラクティブ・コンポジション

「コードをつける」ということ

あなたが特にコード(和音)について何の知識もお持ちでない場合、自分で思いついたメロディに、適したコードを付けるにはどうしたらいいでしょうか。

実際、コードとメロディとの間には密接な関係があります。しかし、「このようにしなければならない」といった厳しいきまりはありません。

確かに、曲想や音楽のジャンルに応じて「このメロディに対してはこのようにコードをつける」とか「このコードのつぎにはこのようなコードが続く」といった法則や形式のようなものが、数多くあることは事実です。けれども、全ての音楽がこういった規則にしたがって作られているわけではもちろんありません。

さて、**C-900のインタラクティブ・コンポジション(IC)**とは、**あなたが鍵盤でメロディを弾くと、**

1. そのメロディを**C-900**が自動的に分析し、あらかじめ決めておいた曲想といくつかのバターンに応じて、そのメロディに「適した」コードを**C-900**が自動的に決める。
2. 決まったコードを、メロディの伴奏として**C-900**が自動演奏する。

という機能です。

この伴奏は、鍵盤でメロディを弾くのと同時に演奏させることもできますし、あらかじめバックキック・シーケンス・モードで**C-900**にメロディを録音しておいて、それを再生しながら同時に伴奏させることもできます。

メロディを弾くと同時に伴奏(**リアルタイムIC**)させるのと、あらかじめ録音しておいたものを伴奏(**バックキック・シーケンスIC**)させるのでは、たとえ同じメロディを弾いた場合でも、それに対するコードの決まり方が異なる事があります。

あらかじめメロディを録音しておいた場合のほうが、より「適した」コードがつけられます。

ここで、メロディに「適した」コードが決まる、という話をしてきましたが、**C-900**のインタラクティブ・コンポジション機能は、あくまでも一般的に知られている和声やコード進行の形式に基づいて、メロディを分析し、それに「適した」コードを決めます。しかし初めに述べたとおり、全ての音楽がこのような形式通りに作られているわけではありません。

したがって、**C-900**が「適した」と決めたコードが、必ずしもその曲の「正しい」コードであるとは限らないわけです。

**C-900**のインタラクティブ・コンポジション機能は、もとの曲に忠実なコードを再現するためのものではなく、みなさんが曲を作る際に、コードをつける上での、ある「ヒント」を提供する機能とお考えください。

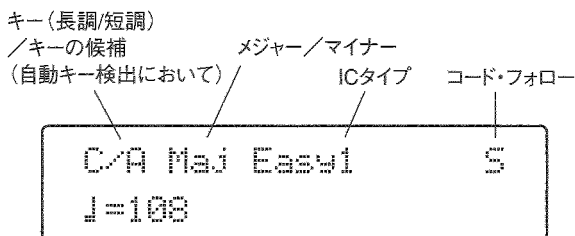


# 1.インタラクティブ・コンポジション機能の設定

まず、インタラクティブ・コンポジション機能を活用するための、さまざまな設定項目をみてみましょう。

アレンジメント・プレイ・モードで、**C-900**の操作パネル右側にある、INTERACTIVE COMP. キーを押してください。

- 1. INTERACTIVE COMP.のLEDが点灯します。
- 2. 1ページ目にいる場合の液晶画面には、次のように表示されます。



## キー [ANL, C/A, C#/A#, D/B, .....B/G#]

演奏したい曲のキー(調)を設定します。  
 メジャー(長調)キーは/(スラッシュ)の左側に、マイナー(短調)キーは右側に、それぞれのトニックが表示されます。  
 AUTOにすると、自動キー検出機能が働きます。キーがよくわからない場合には、自動キー検出機能によってキーを検出することができます。☞P.40「自動キー検出機能」

## メジャー/マイナー [Maj, Mm, min, mM]

演奏したい曲がメジャー(長調)であるか、マイナー(短調)であるかを指定します。

Maj ..... メジャーの曲。コードはメジャーが中心になります。

Mm ..... メジャーの曲。コードの中にマイナーが加わることもあります。

min ..... マイナーの曲。コードはマイナーが中心になります。

mM ..... マイナーの曲。コードの中にメジャーが加わることもあります。

## ICタイプ [Easy1-2, General1-4, Special1-2]

インタラクティブ・コンポジション機能によってコードをつける場合に、出てくるコードの傾向を設定することができます。

Easy ..... 最も一般的で、無難なコードがつけられます。1よりも2のほうがいくぶん複雑なコードがつく傾向があります。

General ..... 一般的なコードがつけられます。1から4までのいずれを選ぶかによって、少しずつ傾向が異なります。ためしめて最も曲想にあうものを選んでみてください。

Special ..... 個性的なコードをつけるのに役立ちます。1と2とでは、メジャー/マイナーの設定によって現われるコードの傾向が多少異なります。ためしめて曲想にあう方を選んでみてください。

## コード・フォロー

[S, F]

インタラクティブ・コンポジション機能によって、メロディに対してつけられるコードの、切り替わる頻度を設定します。

通常はSに設定しておけば特に問題はありません。音符の数の多い曲を、ゆっくりとしたテンポで演奏するような場合には、Fに設定するとよいでしょう。

S ..... それぞれの小節の先頭ごとにコードをつけるようにします。すなわち、1小節につき1種類のコードが割り当てられます。

F ..... それぞれの小節の先頭と中間とで、コードをつけるようにします。すなわち、1小節につき最大2種類のコードが割り当てられます。

メロディを弾くと同時にコードをつける

## 2.弾いたメロディにコードをつけてみましょう

それでは、いよいよインタラクティブ・コンポジション機能を使って、弾いたメロディにコードをつけてみましょう。

### ● リアルタイムIC

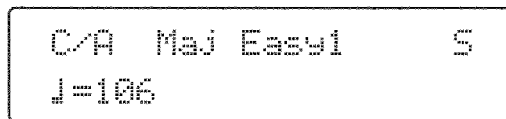
i) まず、アレンジメント・プレイ・モードで、お好みのアレンジメントを選んでおきましょう。ARRANGEMENT GROUPキーとARRANGEMENT SELECTキーで、これから弾こうとするメロディにマッチしそうなアレンジメントを選んでおいてください。

アレンジメントを設定

ii) 1ページ目の画面を表示した状態で操作パネル右側のINTERACTIVE COMP.キーを押してください。

→ INTERACTIVE COMP.のLEDが点灯します。

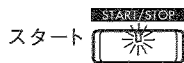
→ 液晶画面には、次のように表示されます。



iii) 液晶画面の上の、キー、メジャー/マイナー、ICタイプ、コード・フォローのそれぞれのパラメータを、P.38の解説にしたがって設定しておいてください。

iv) 操作パネル左側の、START/STOPキーを押してください。

→ アレンジメントの演奏が始まります。



v) 鍵盤の右手側で、何かメロディを弾いてみてください。

→ メロディに自動的にコードがつけられ、アカンパニメントとベースとなって演奏されます。

→ 液晶画面には、インタラクティブ・コンポジション機能によってつけられたコードが表示されます。



リアルタイムICの場合には、音符を短めに(歯切れよく)弾くのが、メロディをうまくC-900に分析させるコツです。

### ● インタラクティブ・コンポジションで使用する鍵盤の範囲

分析するメロディを弾くための鍵盤の範囲は、コード・スキャンニングの設定によって変わります。

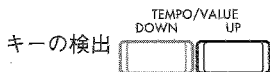
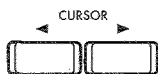
OFFまたはFULLのとき ..... 全ての鍵盤上でメロディを分析します。

LOWERまたはUPPERのとき ... スプリット・ポイントよりも高音側(右手側)の音域で、メロディを分析します。

● 自動キー検出機能

キーを設定するときに、AUTOを選択しておく、自動キー検出機能が働きます。

演奏したい曲のキーがよくわからない場合には、自動キー検出機能によってキーを検出することができます。



録音したメロディにコードをつける  
アレンジメントを設定



i) アレンジメント・プレイ・モードで、お好みのアレンジメントを選んでおきましょう。

ii) 操作パネル右側のINTERACTIVE COMP.キーを押してください。

iii) 液晶画面上の、キーのパラメータをAUTOに設定してください。

その他のメジャー/マイナー、ICタイプ、コード・フォローのそれぞれのパラメータは、P.38の解説にしたがって設定しておいてください。

iv) START/STOPキーを押してください。

→ 演奏が始まります。ただし、リズムのみが自動演奏されます。

v) 鍵盤の右手側で、メロディを弾いてください。

このときコード・スキャニングやインタラクティブ・コンポジションは働きません。

vi) 弾き終わったら、START/STOPキーをもう1度押してください。

vii)液晶画面のカーソルを、CURSORキーの◀または▶を使って、キーの位置にあわせてください。

viii)TEMPO/VALUEのUPキーを押してください。

→ UPキーを押すたびに、いま演奏したメロディのキーとして、可能性の高い順番に、キーの候補が液晶画面に表示されます。

演奏が停止している状態で、RESET/YESキーを押すと、検出した候補の順番は解除されます。

ix) キーがぎまったら、もう1度演奏してみましょう。

START/STOPキーを押してください。

→ 演奏が始まります。この状態でメロディーを弾くと、設定されたキー(調)に合ったコードでア  
カンパニメントとベースが演奏されます。

● バッキング・シーケンスIC

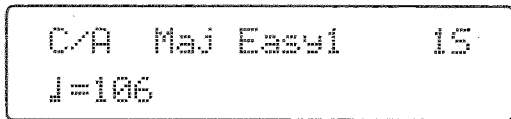
i) まず、バックキング・シーケンス・モードで、お好みのアレンジメントを選んでおきましょう。

ARRANGEMENT GROUPキーとARRANGEMENT SELECTキーで、これから弾こうとするメロディにマッチしそうなアレンジメントを選んでおいてください。

ii) INTERACTIVE COMP.キーを押してください。

→ INTERACTIVE COMP.のLEDが点灯します。

→ 液晶画面には、次のように表示されます。



## リプレイ・タイプ(バックング・シーケンスICのみ) [1, 2, 3, 4]

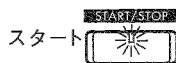
バックング・シーケンス・モードで録音した演奏に対して、インタラクティブ・コンポジション機能によってコードをつける場合の、メロディの分析と処理の方針を指定します。

演奏と同時にコードをつける場合(アレンジメント・プレイ・モード)では、このパラメータは使用しません。

- 1 ..... 基本的にはアレンジメント・プレイのときと同じ処理方式ですが、演奏のタイミングのずれに対して補正を行った上で、メロディを分析します。したがって、リアルタイムの場合に比べて、タイミングの不安定な演奏に対しても、より確実なコード処理を行います。
- 2 ..... コードをつける小節内のメロディを分析してから、コードをつけるように処理します。この方法では、コードをつける直前の部分(いままで弾いたメロディ)だけしか分析できないリアルタイムの場合の処理と比べて、より無難で自然なコードがつくように処理します。★
- 3 ..... 上記2の方法とほとんど同じコード処理をします。ただし、メロディによっては不自然なコードがあらわれる可能性があります。
- 4 ..... 上記2の方法と同様のコード処理をしますが、特にコードの変化の仕方(コード進行)をさらに分析して、より自然で豊かなコード進行になるように処理します。★

★注意: この設定の場合、コード・フォローのパラメータをSに設定しておいたときでも、1小節内で2回コードが変わることがあります。P.39「コード・フォロー」

iii) 液晶画面の上の、キー、メジャー/マイナー、ICタイプ、リプレイ・タイプ、コード・フォローのそれぞれのパラメータを、P.38の解説にしたがって設定しておいてください。



iv) まずBACKING SEQ RECキーを押してから、START/STOPキーを押してください。  
→ 演奏が始まります。



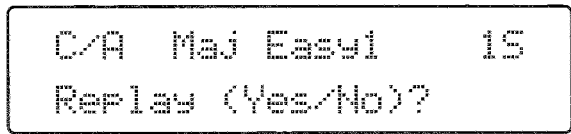
v) 鍵盤の右手側で、何かメロディを弾いてみてください。  
→ メロディに自動的にコードがつけられ、アカンパニメントとベースとなって演奏されます。  
→ 液晶画面のテンポ表示の右側には、インタラクティブ・コンポジション機能によってつけられたコードが表示されます。



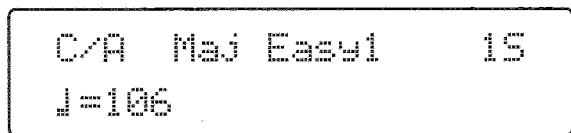
バックング・シーケンスICの場合には、音符をあまり短く弾くと、C-900はその音を間違っ



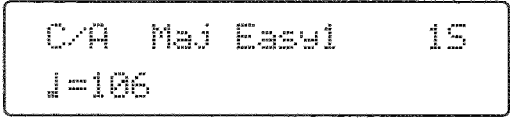
vi) 弾き終わったら、START/STOPキーをもう1度押してください。  
→ 液晶画面には、次のように表示されます。



vii) コードをつけた演奏を聴き直したいときは、RESET/YESキーを押してください。  
TAP TEMPO/NOキーを押すと、演奏停止の状態に戻ります。

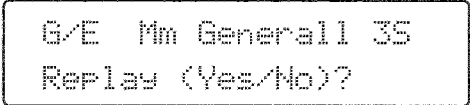


viii)キー、メジャー/マイナー、1 Cタイプ、リプレイ・タイプ、コード・フォローの設定を変更することができます。



CURSORキーの◀キーと▶キーで変更したい項目を選び、TEMPO/VALUEのUPキーとDOWNキーでそれぞれの項目の設定を変更してください。

変更が終わったら、START/STOPキーを押してください。



ここでRESET/YESキーを押すと、変更した設定にしたがって新たに付け直されたコードで、演奏が始まります。ただし、RESET/YESキーを押した時点で、録音をしたときのコード進行は消えてしまいますのでご注意ください。

上の画面で、TAP TEMPO/NOキーを押すと、液晶表示は設定を変更した状態のまま、演奏停止の状態に戻ります。

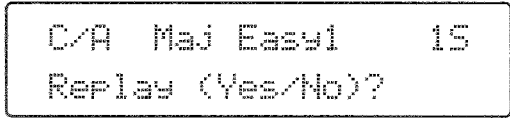


● **すでに録音してある演奏にコードをつける**

バックিং・シーケンス・モードであらかじめ録音しておいた演奏データにも、インタラクティブ・コンポジション機能によってコードをつけることができます。

- i) バッキング・シーケンス・モードで、C-900になにか演奏データを記録しておきます。
- ii) 操作パネル右側のINTERACTIVE COMP.キーを押し、続いてSTART/STOPキーを押してください。

- INTERACTIVE COMP.のLEDが点灯します。
- 液晶画面には、次のように表示されます。

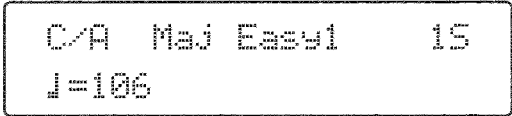


- iii) コードをつけた演奏を聴きたいときは、RESET/YESキーを押してください。
- インタラクティブ・コンポジション機能によってつけられたコードにしたがって、演奏が始まります。

上の画面で、TAP TEMPO/NOキーを押すと、何の処理もしないで演奏停止の状態に戻ります。



iv) キー、メジャー/マイナー、ICタイプ、コード・フォローの設定を変更することができます。



CURSORキーの◀キーと▶キーで変更したい項目を選び、TEMPO/VALUEのUPキーとDOWNキーでそれぞれの項目の設定を変更してください。

変更が終わったら、START/STOPキーを押してください。



ここでRESET/YESキーを押すと、変更した設定にしたがって、演奏データには新たにコードがつけ直されます。

上の画面で、TAP TEMPO/NOキーを押すと、液晶表示は設定を変更した状態のまま、演奏停止の状態に戻ります。

バックイング・シーケンス・モードでの自動キー検出

キーの設定をAUTOにすると、演奏データのキーの検出をP.40のように行います。このとき、コードのつけ直しは行われません。

バックイングシーケンスモードにおいて自動キー検出を行う場合、分析させたいメロディーはキーボード・トラックに記録しておいてください。エクストラ・トラックに記録した場合は、自動キー検出を実行することはできません。液晶表示にはKeyboard Track Emptyと表示されます。エクストラ・トラックにメロディを記録してしまった場合には、自動キー検出を実行するまえに、コピー・メジャー機能(活用ガイドP.30)か、あるいはパウンス機能(活用ガイドP.31)を用いて、キーボード・トラックにデータを移しておいてください。

コードのつけ方を比べてみる

1つの演奏データに対して、何通りかのコードのつけ方を試してみて、あとから比較してみたい、という場合があるでしょう。

設定を変更して、コードのつけ方を変えるたびに、そのバックイング・シーケンスを保存しておけば、あとからバックイング・シーケンスを切り替えて聴き比べをすることができます。

このような場合は、バックイング・シーケンスのコピー機能を使います。

コードのついたバックイング・シーケンスを、別のバックイング・シーケンスへコピーしておいて、またコードをつけ直すことを繰り返せば、異なったコードのつけ方の候補をいくつもつくることができます。☞活用ガイドP.27「コピー・バックイング・シーケンス」

さて、次のページから、このインタラクティブ・コンポジション機能の働きがよくわかる例として、いくつかの曲を紹介しましょう。簡単な曲ですが、鍵盤を押さえたり離したりするタイミングによって、コードのつけられ方...C-900のメロディの分析の仕方が変わってくるにお気づきになると思います。曲ごとにパラメータの設定の例が示してありますから、あなた自身の弾きやすいテンポで、いろいろな設定・いろいろな弾き方でためしてみてください。ちょっとした弾き方のコツがつかめれば、インタラクティブ・コンポジション機能を確実に使いこなすことができるはずです。

# 茶色の小びん

Traditional

アレンジメント	BALLROOM DANCE 1 Foxtrot 2
キー	C/A
メジャー/マイナー	Maj
コード・フォロー	S
ICタイプ	General 1, 2, 3

Musical score for '茶色の小びん' in C major, 4/4 time. The score consists of four staves. The first staff is the vocal line with lyrics: ミ ソ ソ ファ ラ ラ. The second staff has lyrics: シ シ ラ シ ド レ ミ ミ ソ ソ ファ ラ ラ. The third staff has lyrics: シ シ ラ シ ド ド ド ミ ド ソ ファ ラ ラ シ シ ラ シ. The fourth staff has lyrics: ド レ ミ ミ ド ソ ファ ラ ラ シ シ ラ シ ド ド ド. Chords are indicated above the notes: C, F, G7, C, C, F, G7, C, C, F, G7, C.

# 線路は続くよどこまでも

Traditional

アレンジメント	POP2 1 Motown
キー	F/D
メジャー/マイナー	Maj
コード・フォロー	S
ICタイプ	Easy 1, 2 General 1, 2, 3

Musical score for '線路は続くよどこまでも' in F major, 4/4 time. The score consists of five staves. The first staff is the vocal line with lyrics: ファド ファド ファソ ラ ファ. The second staff has lyrics: ♭シ ♭シ ファソ ラ ファド ファド ファソ ラ ファ. The third staff has lyrics: ソ ソ ソ ラ ソ ソ ソ ♯ファソラソ ファ ド. The fourth staff has lyrics: ♭シ ♭シ ファ ソ ラ レ ミ ファミ ファレ. The fifth staff has lyrics: ド ファ ラ シ ラ ソ ファ. Chords are indicated above the notes: F, B♭, F, C7, C, F, B♭, F, F.

## 7. 機能と操作・用語集

ここからのページには、**C-900**を使いこなすために知っておきたい機能や基本的な用語の解説がアルファベット順に掲載されています。**C-900**の操作パネル上の1つ1つのキーの働きについても、くわしく説明してあります。

- 太字の見出し語は、基本的な用語や概念についての説明を表わします。

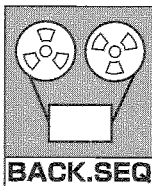
### 例) ARRANGEMENT アレンジメント

- ■ で囲んである見出し語は、操作パネル上のキーの働きについての説明を表わします。

### 例) ARRANGEMENT GROUP アレンジメント・グループ



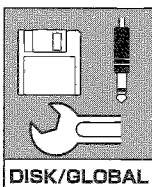
アレンジメント・プレイ・モードで有効な機能です。



バックイング・シーケンス・モードで有効な機能です。



ソング・プレイ・モードで有効な機能です。



ディスク/グローバル・モードで有効な機能です。



このキーは、LEDで動作の状態が示されるようになっています。多くの場合、そのキーを押すたびにLEDは点灯と消灯を繰り返し、LEDが点灯しているときには、そのキーの機能が働いていることを示します。またキーによっては、LEDが点滅して、特別な状態であることを示す場合もあります。

# A

## ACCOMPANIMENT アカンパニメント

アカンパニメントとは、もともと「伴奏」を意味する言葉です。

C-900では、ドラムやパーカッションなどの打楽器およびベース以外の、伴奏の楽器の音やその演奏に使用されるトラックのことを、アカンパニメントと呼びます。

## ARRANGEMENT アレンジメント

スタイルと、二つのキーボード・ティンバーの設定(シングル、レイヤー、スプリットなど)をあわせて、アレンジメントと呼びます。

C-900には、16のグループに分類されている計128種類のプリセット・アレンジメントと、64種類のユーザー・アレンジメントが含まれています。

それぞれのアレンジメントには、プログラム(楽器の音色)、ボリューム、パン、エフェクト、テンポ、ミュートといった、様々な設定項目があります。このうち、64個のユーザー・アレンジメントは、これらの設定をご使用になる方が、自分の使いやすいように自由に変更したり、別売のサウンド/ソング・ライブラリーのフロッピー・ディスクからまったく新しい設定データをロードして使用することができます。

## ARRANGEMENT GROUP アレンジメント・グループ



1. アレンジメントのグループを選択するときに使います。

アレンジメントはジャンル別に16種類のプリセット・アレンジメント・グループと1つのユーザー・アレンジメントのグループに分類されており、いずれかのキーを押すと、上下に二つ並んだLEDの上の方が点灯して、上側のグループが選択されたことを示します。

また、同じキーを続けて押すと、押すたびに上下のLEDが交互に点灯して、上側のグループと下側のグループを切り替えて選択することができます。

2. ページ画面を選択するときに使います。

モード・キーを押しながらいずれかのキーを押すと、モードに応じて、そのキーに対応した9番目から16番目までのページ画面を直接表示させることができます。

○ POP 1 ○ SLOW POP ○ LATIN 1 ○ JAZZ ○ BALLROOM DANCE ○ WALTZ ○ DANCE 1 ○ U.S. POP  
○ POP 2 ○ LATIN POP ○ LATIN 2 ○ BIG BAND ○ BALLROOM LATIN ○ TRAD ○ DANCE 2 ○ ROCK ○ USER

ARRANGEMENT GROUP  
9 10 11 12 13 14 15 16

## ARR PLAY アレンジメント・プレイ



このキーを押すと、アレンジメント・プレイ・モードに入ります。

C-900の鍵盤を単独で弾いたり、自動伴奏させながら演奏したりするときには、このモードを選んでください。

## ARRANGEMENT PLAY MODE アレンジメント・プレイ・モード

C-900の鍵盤を単独で弾いたり、自動伴奏させながら演奏したりするための、最も基本となるモードです。

また、アレンジメントの設定を一時的に変更したり、変更したアレンジメントをユーザー・バンクに登録したりなどの操作も、このモードで行います。

## ARRANGEMENT SELECT アレンジメント・セレクト



アレンジメント・グループ・キーで選んだグループのなかから、アレンジメントを選択するときに使います。

上下キーを押して、選択したグループのなかから任意のアレンジメントを指定することができます。1つのグループのなかには、8つずつのアレンジメントが含まれています。

それぞれのアレンジメント・グループのなかに含まれているアレンジメントは、活用ガイド巻末の付録Dに示されています。

## ARRANGEMENT TRACK アレンジメント・トラック

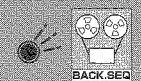
伴奏用の6つのバックিং・トラックと、演奏用の2つのキーボード・トラック(KBD1/UPPER, KBD2/LOWER)をあわせて、アレンジメント・トラックと呼びます。

☞ キーボード・トラック

☞ バッキング・トラック

# B

## BACKING SEQ バックিং・シーケンス



1. このキーを押すと、バックিং・シーケンス・モードに入ります。

C-900で演奏した演奏データを、伴奏と一緒に記録しておいたり、修正したり、新たな演奏データをつくらうときには、このモードを選んでください。

2. バッキング・シーケンス・モードでこのキーを押すたびに、LEDが点灯している状態と、点滅している状態とに

切りかわります。これによって、VOLUME/MUTEキーでボリュームの設定ができるトラックを、アレンジメント・トラック(KBDやACC、PERC、DRUMSなど)と、エクストラ・トラック(ETr1~ETr8)とのどちらにするかを選択することができます。

エクストラ・トラックのボリュームが設定できる状態になっているときは、LEDが点滅します。

ただし、リアルタイム録音・再生ページ(一番最初のページ)を開いているときでないと、音量やミュートの設定はできません。

## BACKING SEQUENCE MODE バックング・シーケンス・モード

C-900で演奏した演奏データを、伴奏と一緒に記録しておいたり、さまざまな修正を加えたり、新たな演奏データを一からつくったりするモードです。

つくった演奏データを、スタンダードMIDIファイルのフォーマットに変換する処理も、このモードで行います。

### BACKING SEQ REC バックング・シーケンス・レコーディング



1. このキーを押すと、録音の待機状態になります。リアルタイム・レコーディングでもステップ・レコーディングでも同様に使用します。
2. アレンジメント・モードでユーザー・バンクが選ばれているときにこれを押すと、選ばれているアレンジメントにデータをライトします。“Write to ARROO?”というメッセージが表示されますので、ライトしても構わなければ、RESET/YESキーを押してください。

## BACKING TRACK バックング・トラック

スタイルを構成する、3つのアカンパニメント・トラックと、ベース、パーカッション、ドラムスの3種類のトラックをあわせた計6つのトラックを、伴奏全般を受け持つという意味で、バックング・トラックと呼ばれます。

### BASS INVERSION ベース・インバージョン



このキーを押しておく、鍵盤でコードを指定するとき、C-900は押さえられた鍵盤のうち一番低い音をベース音として、コードの展開形とは別に認識するようになります。したがって、Am7/Gとか、F/Cなどの、ベース音が独立した形のコードでも指定することができるようになります。

コード・スキャンニングがFULLの場合ベース音から手を離しても、次にベース音が指定されるまで、直前のベース音が有効になります。

## C

### CHORD コード

和音の種類(音の重なりかたの違い)を表わす方法の1つとして、コード(コード・ネーム)があります。

C-900では、特に断わりのない限り、和音そのものをこのことをさして、コードと呼んでいます。

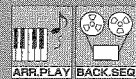
#### CHORD HOLD/◀

##### 1. コード・ホールド



アレンジメントを演奏するとき、このキーを押しておく、左手を鍵盤から離しても、そのときのコードとベースが次に鍵盤を押さえるまでは鳴り続けるようになります。コードの変わり目で素早く鍵盤の押さえ方を変える必要がなくなるので、鍵盤になれていない方に便利です。

##### 2. ◀



バックング・シーケンスのステップ・レコーディングにおいて、このキーを押すたびに、表示される(エディットできる)ステップが1つずつ後退します。☞活用ガイドP.22

また、アレンジメント・プレイ・モードのリネーム・アレンジメント(☞活用ガイドP.10)とバックング・シーケンス・モードのリネーム・バックング・シーケンス(☞活用ガイドP.37)の際に、書きかえる文字を指定するためのカーソルをこのキーで移動させることができます。

## CHORD SCANNING コード・スキャンニング

鍵盤の全体または一部を監視して、その範囲内で押さえられた鍵盤からコードを検出する機能を、コード・スキャンニングと呼びます。

スプリット・ポイントを境として、右手側の鍵盤を検出の範囲とする(アッパー・コード・スキャンニング)か、左手側の鍵盤を検出の範囲とする(ロワー・コード・スキャンニング)か、あるいは全体を検出の範囲とする(フル・コード・スキャンニング)か、の3つのうちのいずれかを選択することができます。

#### CHORD SCANNING

##### コード・スキャンニング



押さえられた鍵盤からコードを検出する機能(コード・スキャンニング)を、鍵盤上のどの範囲において有効にするかを、このキーで設定することができます。

キーを押すたびに、LOWER(ロワー)/UPPER(アッパー)/FULL(フル)/オフ(鍵盤上でコードを認識しない)の順に、モードが切り替わります。

スプリット・ポイントを境として、右手側の鍵盤を検出の範囲とする(アップパー・コード・スキャンニング)が、左手側の鍵盤を検出の範囲とする(ロワー・コード・スキャンニング)が、あるいは全体を検出の範囲とする(フル・コード・スキャンニング)が、の3つのうちのいずれかを選択することができます。

アップパー・コード・スキャンニングおよびフル・コード・スキャンニングに設定したときは、3音以上の鍵盤を同時に押さえることによって、コードの検出が行われるようになります。

左手で押さえるコード(ロワー・コード・スキャンニング)は、指1本だけでメジャー・コード、二本ならマイナー・コードやsus4コードという具合に、省略した押さえ方ができます。完全な全ての構成音を押さえなくてもいいのです。

どのように鍵盤を押さえたときにどんなコードが作られるかについては、活用ガイド巻末の付録C「認識されるコード一覧」を参照してください。

## CURSOR カーソル

**C-900**の液晶画面上で、そのときの設定を変更することができる項目の設定部分の下に、点滅している小さな横線のことをカーソルといいます。

カーソルは液晶画面の右にあるCURSORキーを使って、左右または上下に移動させることができます。

カーソルで指示されている項目は、TEMPO/VALUEキーなどを使って、設定を変更することができます。



カーソルで、液晶画面上の設定項目を選択したいときに、このキーを使います。

このキーを押すと、カーソルが画面の設定項目の下を順に移動します。

- ▶キーを押すと、カーソルは左から右へと移動します。
- ◀キーを押すと、カーソルは右から左へと移動します。
- ▶キーを押してカーソルがその画面の最後の項目まで移動すると、また最初の項目に戻って移動を繰り返します。

## D



バックキング・シーケンスのイベント・エディットにおいて、現在表示されているステップを消去したいときには、このキーを押してください。

活用ガイドP.32「イベント・エディット」

また、リネーム・アレンジメント(活用ガイドP.10)、リネーム・バックキング・シーケンス(活用ガイドP.37)、セーブ(活用ガイドP.57)、CONVERT TO SMF(活用ガイドP.38)の各操作において、このキーを押すと、アレンジメント名、バックキング・シーケンス名、ファイル名のカーソルが置かれている位置にある1文字を削除します。

## DEMO デモ



このキーを押すと、**C-900**の自動演奏のデモンストレーションが始まります。デモンストレーションは、どのモードにいても聴くことができます。P.18

## DISK/GLOBAL ディスク/グローバル



このキーを押すと、ディスク/グローバル・モードに入ります。

**C-900**の演奏データをフロッピー・ディスクからやり取りしたり、**C-900**全体の音程の調節やスケールの選択など、各種の基本機能の設定、外部に接続するフットスイッチやペダルの設定、MIDI機能の設定などを行うときには、このキーを押してください。

## DISK/GLOBAL MODE ディスク/グローバル・モード

**C-900**の機能全体に関する、様々な設定を行うモードです。フロッピー・ディスクやMIDI機能を利用した、データの管理に関する操作も、このモードで行います。

## E

## EDIT エディット

エディットとは「編集」という意味の言葉です。**C-900**では、バックキング・シーケンス・モードのさまざまな機能を使って、演奏データを修正したり、作りかえたりする作業のことをエディットと呼んでいます。

イベント・エディット

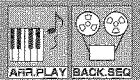
## EFFECT エフェクト



エフェクトとは「効果」という意味の言葉です。**C-900**では、独立2系統のエフェクト・システムによって、演奏する音にいろいろな効果を与え、音楽づくりの仕上げをより完璧なものにします。

エフェクトの種類は、アレンジメント・プレイ・モード、バックキング・シーケンス・モード、およびソング・プレイ・モードのエフェクト・ページで選ぶことができます。

## ENDING エンディング



曲の結末、後奏のことです。**C-900**では、1つ1つのスタイルごとに、それぞれENDING 1とENDING 2の2種類のエンディングが用意されています。

ENDING1はコード進行があるエンディングです。

ENDING2はコード進行がないエンディングです。従って、自分でエンディング中にコードを変える場合に使います。

**C-900**本体のパネル上では、INTRO/ENDINGの1と2の2つのキーで、演奏に後奏を付加することができます。

アレンジメントの演奏の途中でENDINGキーを押すと、エンディングが演奏された後、自動的にストップします。

## ENSEMBLE アンサンブル



このキーを押しておくで、鍵盤でメロディを弾くときなどに、そのときのコード・スキャンニングに応じたハーモニーを、メロディと同時に鳴らすことができます。

## EVENT EDIT イベント・エディット

**C-900**のバックキング・シーケンス・モードで録音した演奏データは、「何小節目の何拍目ではこれこれの音をこの時間だけ鳴らさない」、「何小節目からあとはこれこれの音を別の音色に切り替えなさい」などといった、**C-900**を自動的にコントロールするためのたくさんの指示の集まりでできています。この1つ1つの指示のことをイベントと呼びます。

バックキング・シーケンス・モードでは、録音した演奏データを、1つ1つのイベントごとに変更したり、追加したり、削除したりして、非常にきめの細かな修正をしたり、データをつくりかえたりすることができます。

このイベントを修正したり、直接つくりかえたりする機能のことを、イベント・エディットと呼びます。

## EXIT エグジット



1. 全てのモードで、どのページを開いているときでも、このキーを押すと一番最初のページに戻ります。
2. バックキング・シーケンス・モードのサブページ(エディット操作に関するページ)や、ディスク/グローバル・モードのサブページ(ディスク操作に関するページ)を開いているときにこのキーを押すと、一番上のページに戻ります。P.33
3. オクターブやトランスポーズの設定画面など、一定時間だけ表示された後、自動的にもとの戻るような画面(ポップ・アップ画面)、あるいは、プログラムの選択の途中の画面(バンクやナンバーを設定している途中の画面)が表示されている間にこのキーを押すと、直ちに元の画面に戻ります。

その他、何かキー操作の途中で、その操作を中止したいときにはこのキーを押してください。

バックキング・シーケンス・モードの最初のページでこのキーを押すと、現在使用されているアレンジメントの表示をします。表示後約7秒でもとのページ画面に戻ります。

活用ガイドP.17

## EXTENSION エクステンション

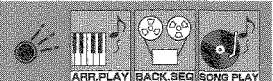
**C-900**のアレンジメントやプログラム・バックキング・シーケンスなどといった、様々なデータの種類を区別するために、ファイル名の後につけられるピリオド(.)とそれにつづく3つの英文字のことをエクステンション(拡張子)といいます。

ファイル

活用ガイドP.54「ディスクに記録されるデータ」

## F

### FADE IN/OUT フェード・イン/アウト



演奏を始めるとき、START/STOPキーの代わりにこのキーを押すと、無音の状態から音がだんだん大きくなるように演奏がスタートします。

また、演奏を止めるとき、START/STOPキーの代わりにこのキーを押すと、音が徐々に小さくなって消えて行くように演奏が終わります。

## FILE ファイル

**C-900**で使用するプログラムやアレンジメント、バックキング・シーケンスなどのデータは、管理しやすいようにそれぞれ名前をつけて、フロッピー・ディスクに保存することができます。

このように、名前をつけて管理できるようになっているデータの集まりのことを、コンピュータ用語でファイルと呼びます。

## FILL フィル・イン

俗に「オカズ」と呼ばれているもので、曲を演奏するなかでメロディとメロディの間などにアドリブ的に挿入される、短いフレーズのことをいいます。

**C-900**では、1つ1つのスタイルごとに、それぞれFILL 1とFILL 2の2種類のフィル・インが用意されています。本体のパネル上では、FILLの1と2の2つのキーで、演奏にフィル・インを挿入することができます。

スタイルによっては、フィルをイントロの代わりとして使用できるものもあります。

また、アレンジメント・プレイ・モードのFillの設定によって、あるバリエーションの演奏中にフィル・インを入れると、そのあと自動的に別のバリエーションに切り替わるよう設定することができます。

### FILL (1, 2) 1. フィル・イン



アレンジメントを演奏している途中でこのキーを押すと、2通りのフィル・インを演奏することができます。

フィルの演奏に入ると、それまで演奏していたバリエーションのLEDが点滅します。

アレンジメントによっては、イントロの代わりとして使用できるフィルもあります。

### 2. ステップ入力



バックキング・シーケンス・モードのステップ・レコーディングで、ステップ(音符の長さ)をこのキーで直接指定することができます。

☞活用ガイドP.21「ステップ・レコーディング」

FILL 1 = ♪ (16分音符)

FILL 2 = ♪ (32分音符)

## G

### GM(General MIDI) ジェネラルMIDI

種類の異なるMIDI機器の間で、演奏データをやりとりするための共通の楽器の音色(プログラム)や、それぞれの音量の設定などに関する共通の仕様をジェネラルMIDI(GM)といいます。GM対応のMIDI機器のためにつくられた演奏データであれば、機種の違いにかかわらず、どんなGM機器で再生しても、ほぼ同じサウンドで演奏することができます。

☞P.60「General MIDIとは?」

## INS インサート



イベント・エディットにおいて、現在表示されているステップの後ろに、新たに音符またはイベントを挿入したいときには、このキーを押してください。

☞活用ガイドP.32「イベント・エディット」

また、リネーム・アレンジメント(☞活用ガイドP.10)、リネーム・バックキング・シーケンス(☞活用ガイドP.37)、セーブ(☞活用ガイドP.57)、CONVERT TO SMF(☞活用ガイドP.38)の各操作において、このキーを押すと、アレンジメント名、バックキング・シーケンス名、ファイル名のカーソルのある位置に、1文字を挿入することができます。

## INTERACTIVE COMPOSITION インタラクティブ・コンポジション

鍵盤で弾いたメロディを自動的に分析して、最適なコード・コード進行をそのメロディに付加する機能です。

### INTERACTIVE COMP. インタラクティブ・コンポジション



このキーを押すと、鍵盤で弾いたメロディを**C-900**が分析して自動的にコードを決め、そのコードに基づいて自動的に伴奏のベースとアカンパニメントが演奏されます。

この機能は、アレンジメント・プレイ・モードで鍵盤を弾くのと同時に伴奏をつける使い方と、バックキング・シーケンス・モードでいったん録音しておいたメロディを分析し、それを再生するときに伴奏をつけるという二つの使い方があります。この使い方の違いによって、たとえ同じメロディを弾いた場合でも、それに対するコードの決まり方が異なる事があります。

☞P.30、P.37「インタラクティブ・コンポジション」



## INTRO イントロ

曲の前奏のことです。**C-900**では、1つ1つのスタイルごとに、それぞれINTRO1とINTRO2の2種類のイントロが用意されています。

INTRO1はコード進行が含まれています。

INTRO2はコード進行は含まれていません。

**C-900**本体のパネル上では、INTRO/ENDINGの1と2の2つのキーで、演奏に前奏を付加することができます。

アレンジメントの演奏を始める前にINTROキーを押しておく、バリエーションの演奏に入る前にイントロを演奏するか、しないかを設定しておくことができます。

### INTRO/ENDING (1, 2)

#### 1. イントロ/エンディング



1. アレンジメントの演奏を始める前にこのキーを押しておく、バリエーションの演奏に入る前にイントロを演奏するか、しないかを設定しておくことができます。

選択されたイントロのLEDは、イントロの演奏中は点灯し、バリエーションの演奏に入ると同時に消えます。それぞれのスタイルは、2種類のイントロを持っています。

イントロ演奏中に同じINTROキーを押すと、そのイントロはそのまま繰り返し続けます。ほかのINTROキー、VARIATIONキーまたはFILLキーで解除されます。

2. アレンジメントの演奏の途中でこのキーを押すと、エンディングが演奏され、自動的にストップします。それぞれのスタイルは、2種類のエンディングを持っています。

選択されたエンディングのLEDは、そのエンディングに演奏が切り替わるまで点滅を続けます。エンディングに切り替わった後は、演奏が終わるまで点灯し続けます。

#### 2. ステップ入力



バックিং・シーケンス・モードのステップ・レコーディングで、ステップ(音符の長さ)をこのキーで直接指定することができます。

☞活用ガイドP.21「ステップ・レコーディング」

INTRO/ENDING 1 = 付点  
指定した音符の長さを1.5倍にします。

INTRO/ENDING 2 = 3連符  
指定した音符の長さを3分の2にします。

## K

### Key キー

1. **C-900**の操作パネル上のスイッチボタンを、この説明書では「START/STOPキー」、「PROGRAM NUMBERキー」というふうに、キーと呼んでいます。
2. 音楽理論の用語で、「調」のことをキーといいます。

キーにはメジャー・キー(長調)とマイナー・キー(短調)があります。

さらにトニック(主音)の位置によって、Cメジャー、C#メジャー、Dメジャー...あるいはCマイナー、C#マイナー、Dマイナー...という具合に、それぞれ12種類のメジャー・キーとマイナー・キーがあります。

**C-900**では、鍵盤を演奏するときに、そのままでは歌や他の楽器と合わせて演奏するにはキーが低すぎたり高すぎたりするような場合、トランスポーズ機能を使って、キーを半音刻みで上下させることができます。☞トランスポーズ

また、インタラクティブ・コンポジション機能においてキーを指定するときに、曲のキーが何であるかわからない場合、自動キー検出機能を使ってキーを分析することができます。☞P40

## KEYBOARD

### キーボード

一般に鍵盤、あるいは鍵盤楽器のことをキーボードといいます。**C-900**では、特に本体の鍵盤のことをさして、キーボードと呼びます。

## KEYBOARD ASSIGN

### キーボード・アサイン



**C-900**の二つのキーボード・ティンバーを、鍵盤の上でどのように割り振るかを決める機能を、キーボード・アサインといいます。スプリット・ポイントを境として、右手側(アップパー)の鍵盤と左手側(ロワー)の鍵盤とにそれぞれ別々のティンバーを割り当てたり(スプリット・モード)、同じ鍵に二つのティンバーを割り当てたり(レイヤー・モード)することができます。

## KEYBOARD ASSIGN

### キーボード・アサイン

**C-900**の二つのキーボード・ティンバーを、鍵盤の上でどのように割り振るかを、このキーで設定します。

鍵盤上の全ての範囲にわたって同じ種類の音が出るようにするか(シングル・モード)、スプリット・ポイントを境として、右手側の鍵盤と左手側の鍵盤とで別々の音色を発音できるようにするか(スプリット・モード)、1つの鍵を押さえると同時に二種類の音色が重なって出てくるようにするか(レイヤー・モード)、もしくは、1つ1つの鍵盤に、異なったさまざまな打楽器の音が割り当てである(マニュアル・ドラム・モード)か、を選ぶことができます。

キーを押すたびに、SINGLE(シングル)/LAYER(レイヤー)/SPLIT(スプリット)/M.DRUMS(マニュアル・ドラム)の順に、モードが切り替わります。

## KBD LOCK キーボード・ロック



このキーを押すと、現在演奏しているアレンジメントを、演奏しながら別のアレンジメントに切り替えても、テンポや鍵盤の音は元のアレンジメントのまま演奏することができます。

このキーを押すことによって、テンポ、プログラム、オクターブ、キーボード・トラックの発音/ミュートの切り替え、ベース・インバージョン、キーボード・アサイン、スプリット・ポイント、トランスポーズ、コード・スキャン、ボリューム、パン、センド、エフェクトの各パラメータがロックされます。

☞P.24

## KEYBOARD TIMBRE キーボード・ティンバー

C-900の鍵盤を弾くと出てくる、音の源となる部分をキーボード・ティンバーといいます。キーボード・ティンバーはプログラムにしたがっている様々な音色を発音します。

C-900には2つのキーボード・ティンバーがあり、二つを組み合わせると発音することができます。この組み合わせのしかたは、KEYBOARD ASSIGNキーで設定できます。

## キーボード・トラック

C-900のシーケンサーのなかで、実際に鍵盤で演奏されるメロディを記録しておく部分のことをキーボード・トラックといいます。このほかに、コードの情報を記録しておくコード・トラックや、パネル上のスイッチ類の操作を記録しておくコントロール・トラックがあります。

## L

### LAYER レイヤー・モード

C-900では、1つの鍵を押さえたときに、同時に2種類の音色が鳴るようにすることができます。2種類の音色は、普通アレンジメントごとに決まっていますが、あとから変更することも可能です。

キーボード・アサインをLAYERに設定すると、このように2つの音色が重なった状態にすることができます。このような状態をレイヤー・モードと呼びます。

☞キーボード・アサイン

### LOAD ロード

フロッピー・ディスクの中にある(保存してある)C-900のアレンジメントやプログラム、バックিং・シーケンスなどのデータを、C-900の中に移す(戻してやる)ことを、データをディスクから「ロードする」または「読み込む」などといいます。

ロードの操作は、ディスク/グローバル・モードのデータのロードのページで行います。(☞活用ガイドP.54)

☞ディスク/グローバル・モード

## M

### M.DRUMS マニュアル・ドラム

C-900の1つ1つの鍵に、異なった打楽器の音が割り当てられて、鍵盤を弾くと、あたかも打楽器のセット(ドラム・キット)を演奏するように、これらの打楽器の音を鳴らすことができます。

キーボード・アサインをM.DRUMSに設定すると、このように鍵盤でドラム・キットが演奏できる状態にすることができます。このような状態をマニュアル・ドラム・モードと呼びます。

マニュアル・ドラム・モード時にはコードスキャンニングは行われません。

☞キーボード・アサイン

## METRO メトロノーム



このキーを押すとメトロノームの音が鳴ります。

ただし、ソング・プレイ・モードとディスク/グローバル・モード時は除きます。

## MODE モード

**C-900**では、モード・キーを押して選択することができる「ある一連の操作ができる状態」あるいは「ある一連の機能が働く状態」...すなわちアレンジメント・プレイ、バックキング・シーケンス、ディスク/グローバル、ソング・プレイの4種類の状態のことを、一般にモードと呼んでいます。

また、これらのモードとは別に、「ピアノ・モード」や、キーボード・アサイン機能の中にもモードという言葉が出てきますが、これらについては、それぞれの機能の項を参照してください。

🎹ピアノ・モード

🎹キーボード・アサイン

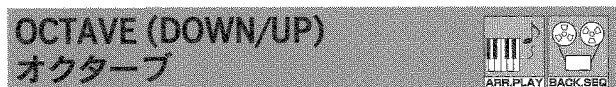
## N



液晶画面に、操作の実行や処理の継続の確認を求める(Yes/No)の表示が出たとき、Noを選択したい場合はこのキーを押してください。

また、サブページを開いている場合、このキーを押してもとの画面に戻ることができます。🎹P.33

## O



このキーを押すと、**C-900**の鍵盤や、自動演奏のときのバックキング・トラック(Bass, Acc1, Acc2, Acc3)の音程を、1オクターブずつ±2オクターブまでの範囲で、上下させることができます。

オクターブの設定は、液晶画面の表示で確認することができます。

UPキーまたはDOWNキーを押すと、画面は次のような表示になります。

この画面は、このキーから手を離してから約7秒後にもとの表示に戻ります。

キーボード・ティンバー1の設定

```
KB1:Pf04 BritePiano
Volume=103  OPPER +1
```

音量

オクターブの設定

UPキーまたはDOWNキーを押すたびに、オクターブの設定が1つずつ増減します。

UPキーとDOWNキーを同時に押すと、オクターブの値は、直ちに0にリセットされます。

## P

### PAGE ページ

**C-900**の4つのモード...アレンジメント・プレイ、バックキング・シーケンス、ソング・プレイ、ディスク/グローバルのそれぞれのモードの中で、さまざまな機能ごとに分けられた表示画面の1つ1つをページと呼びます。

あるモードの特別な機能を働かせたいときには、まずそのモードで、働かせたい機能が表示されているページを選択する必要があります。



全てのモードで、表示したいページを選択するときには、このキーを使います。

+キーを押すたびに、いま表示されているページの次のページが順に表示されていきます。

-キーを押すたびに、いま表示されているページの前のページが順に表示されていきます。

\* 現在選択しているモードのキーとARRANGEMENT GROUPキーまたはPROGRAM GROUPキーを同時に押すと、そのモードの特定のページを即座に表示することができます。活用ガイドのそれぞれのモードの解説の最初のページにある、「ページ画面の切りかえについて」を参照してください。🎹P.32



**C-900**を、自動伴奏などの機能を使用しないで、普通の電子ピアノとして演奏する場合には、このキーを押してください。

#### 1. アレンジメント・プレイ・モードでは...

このキーを押すと、

- ・ プログラムを選んだときに、その音色に最適なエフェクトが自動的に設定されます。また、ペダル・シミュレーション(🎹活用ガイドP.47)が設定されます。

- ・ 鍵盤の中央より右(KB1)左(KB2)のミュート(消音)が解除され、鍵盤をひけば音がでる状態になります。

- ・ キーボード・アサインはSINGLEに設定されます。

- ・ 表示の上の行に音色プログラムのグループ内の番号と音色の名前、下の行にテンポとメトロノームの拍子と音量が表示されるようになります。

## 2. バッキング・シーケンス・モードでは...

自動伴奏無しで録音したい場合は、このキーを押してください。

“Acc Mute”というアレンジが選択され、自動伴奏なしで録音できるようになります。

また、鍵盤全体が鳴るように設定されます。

## PROGRAM プログラム

**C-900**で奏でることのできる様々な楽器の音色のことを、プログラム“PROGRAM”と呼びます。

**C-900**では、16のグループに分類された計327種類の楽器音と、16種類のドラム・キットを含むプログラムが内蔵されています。

このうち、64種類のユーザー・プログラムとドラム・キット2種類は、別売のディスク(KORG IFDシリーズ)に収められているプログラム・データをロードして、内容を変更したりすることができます。

## PROGRAM GROUP プログラム・グループ

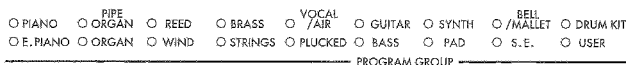
1. プログラムのグループを選択するときに使います。

プログラムは、ドラム・プログラム1種類を含む17種類のプリセット・プログラムのグループと、1つのユーザー・プログラムのグループに分類されており、いずれかのキーを押すと、上下に2つ並んだLEDの上の方が点灯して、上側のグループが選択されたことを示します。

また、同じキーを続けて押すと、押すたびに上下のLEDが交互に点灯して、上側のグループと下側のグループを切り替えて選択することができます。

2. ページ画面を選択するときに使います。

モード・キーを押しながらいずれかのキーを押すと、モードに応じて、そのキーに対応した1番目から8番目までのページ画面を直接表示させることができます。



9番目から16番目のページ画面を表示させるには、ARRANGEMENT GROUPキーを使います。☞P.46

## PROGRAM SELECT プログラム・セレクト

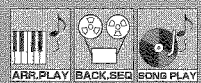
プログラム・グループ・キーで選んだグループのなかから、プログラムを選択するときに使います。

上下キーを押して、選択したグループのなかから任意のプログラムを指定することができます。それぞれのプログラム・グループのなかに含まれているプログラムは、活用ガイド巻末の付録Dに示されています。

1つのグループに含まれるプログラムの数は、グループによって異なります。

## R

### RESET リセット



このキーを押すと、

1. アレンジメント・プレイの途中でいったん変更した音色を元の設定に戻すことができます。
2. バッキング・シーケンスの一番最初の小節まで、即座に戻ることができます。
3. コード指定がされていない状態(鍵盤上でコード・スキッピングの範囲を弾いていない状態)に戻すことができます。

その他、MIDI接続による使用等の操作の途中で音が出っぱなしになって止まらなくなったときには、このキーを押してください。

### REST 休憩



バックリング・シーケンスのステップ・レコーディングにおいて、現在表示されているステップを休憩にしたいときには、このキーを押してください。☞活用ガイドP.21

## S

### SAVE セーブ

**C-900**の中にあるアレンジメントやプログラム、バックリング・シーケンスなどのデータを、フロッピー・ディスクに保存することを、データをディスクに「セーブする」または「書き込む」などといいます。

セーブの操作は、ディスク/グローバル・モードのデータのセーブのページで行います。

☞ディスク/グローバル・モード

☞活用ガイドP.57

バックリング・シーケンスのデータは、その他のデータと違って、**C-900**の電源をオフにすると、**C-900**の本体のメモリから消えてしまいます。ですから、ご自分で**C-900**のバックリング・シーケンス・データをつくらしたら、必ずディスクにセーブしておきましょう。念のために、データをつくらせている作業の合間にも、こまめにセーブしておく習慣をつけておくと安心です。

## SCALE スケール

一般的にはいわゆるドレミファソラシドといった音階のことをスケールと呼びますが、**C-900**では、ディスク/グローバル・モードのスケールというパラメータで、一般的な平均律だけでなく、古典音律や、民族音楽のスケールを使用することができます。さらに、1オクターブ内の12の音の1つ1つについて、それぞれ一音(±50セント)の範囲で、音程を調節することもできます。☞活用ガイドP.68「ユーザー・スケール」

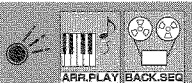
## SEQUENCER シーケンサー

MIDI楽器の演奏を、音の高さや長さ、強さなどのデータ(シーケンス・データ)として記録し、必要に応じて再生する機械またはその機能のことをシーケンサーと呼びます。

ちょうどテープレコーダーが演奏を録音して再生するのとよく似ていますが、シーケンサーでは、演奏をデジタル・データ化することによって、音符ごとに高さやタイミングなどを細かく修正したり、部分的な録音のし直しや、演奏の一部を切り出して置き換えるなど、テープレコーダーでは困難な、幅広い編集作業が非常に簡単に行えます。

**C-900**のバックキング・シーケンス・モードは、演奏データだけでなく、伴奏のコード情報を記録・再生するコード・トラックや、音色の切り替えをはじめとするパネル上のさまざまな操作も記録しておけるコントロール・トラックを含んだアレンジメント・トラックと、演奏を一部差し替えたいときなどに幾つかの候補を用意しておいて、差し換えや比較が簡単にできる8つのエクストラ・トラックをもっています。

## SONG PLAY ソング・プレイ



このキーを押すと、ソング・プレイ・モードに入ります。

スタンダードMIDIファイル(SMF)フォーマットのソング・データを、フロッピー・ディスクから直接ロードして演奏を楽しむときは、このキーを押してください。

ソング・プレイ・モードでこのキーを押すたびに、VOLUME/MUTEキーでボリュームやミュートの設定できるMIDIチャンネルを、Ch01~08までと、Ch09~16までのどちらにするかを選択することができます。

Ch09~16までのボリューム/ミュートが設定できる状態になっているときは、LEDが点滅します。

## SONG PLAY MODE ソング・プレイ・モード

**C-900**は、スタンダードMIDIファイル(SMF)フォーマットのソング・データを、フロッピー・ディスクから直接ロードして再生する機能を備えています。

お手元にSMFフォーマットのデータ・ディスクがあれば、**C-900**にセットして手軽に自動演奏を楽しむことができます。

### SOUND HOLD / ▶ 1. サウンド・ホールド



コード・ホールドと共にこのキーを押しておく、左手で弾いた音(あるいはコード)とベース音が、次に鍵盤を押さえるまで鳴り続けるようになります。

コード・ホールドだけのときと異なるのは、アレンジメントの演奏がストップしているときでも、左手の音とベース音が鳴るということです。ですから、曲をスタートする前にリズムなしでイントロをいれたいときなどに非常に効果的です。

アレンジメントの演奏がスタートすると、ベース音だけはアカンパニメント・トラックの自動演奏にとって代わりますが、左手の音の方はそのまま鳴り続けます。これは、アレンジメントの演奏に厚みをつけるのに役立ちます。

ディスク/グローバル・モードのSound Holdパラメータで、ベース音と共に左手で押さえた鍵盤そのままの音を鳴らすか、押さえた鍵盤をさらにコード・スキャニングしてボイスンクしたコードの音を鳴らすか、それともベース音だけを出すかを設定することができます。

☞活用ガイドP.65

この機能を使用する場合には...

1. コード・スキャニングを、LOWERに設定しておいてください。
2. KBD2/LOWERがミュート状態になっていたら、▲キーと▼キーを同時に押して、ミュートを解除しておいてください。
3. INTRO1およびENDING1では、コードチェンジが決められているため、この機能は使用できません。

### 2. ▶



バックキング・シーケンスのステップ・レコーディングにおいて、このキーを押すたびに、表示される(エディットできる)ステップが1つずつ進んでいきます。☞活用ガイドP.21

また、アレンジメント・プレイ・モードのリネーム・アレンジメント(☞活用ガイドP.10)とバックキング・シーケンス・モードのリネーム・バックキング・シーケンス(☞活用ガイドP.37)の際に、書きかえる文字を指定するためのカーソルをこのキーで移動させることができます。

## SPLIT スプリット・モード

**C-900**では、88の鍵盤を右手側(高音側)と左手側(低音側)に分けて、左右別々の音色を鳴らすことができます。左右の音色は、普通アレンジメントごとに決まっていますが、あとから変更することも可能です。

キーボード・アサインをSPLITに設定すると、このように鍵盤が左右に分割された状態にすることができます。このような状態をスプリット・モードと呼びます。

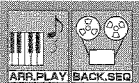
☞キーボード・アサイン

## SPLIT POINT スプリット・ポイント

キーボード・アサインのスプリット・モードや、コード・スキャニングなどで、鍵盤を高音側と低音側とに分割して使用する場合、この高音側と低音側の境目をスプリット・ポイントと呼びます。

スプリット・ポイントは、分割された高音側の鍵盤の、一番低い音で表わされます。

### SPLIT POINT スプリット・ポイント



このキーを押しながら**C-900**の鍵盤上のどれか1つの鍵を押すと、その鍵をスプリット・ポイントとして設定することができます。

**C-900**の二つのキーボード・ティンバーをスプリット・モードで左右に振り分けたり、コード・スキャニングの範囲を限定したりする場合に、このキーを使います。

スプリット・ポイントの設定は、液晶画面の表示で確認することができます。

このキーを押し続けている間だけ、画面は次のような表示になります。

スプリット・ポイントは、アッパー側の一番低い鍵(すなわち、設定するときに押した鍵)で表わされます。

上図の例では、アッパー側はC4の鍵を含めた右側(高音側)の範囲で、ロワー側はB3鍵から左側(低音側)の範囲になっています。

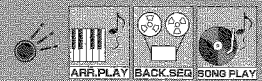
## Standard MIDI File(SMF) スタンダードMIDIファイル

シーケンサー(レコーダー)の演奏データのフォーマットを規定し、メーカーや機種が異なってもフロッピー・ディスクを介してデータのやりとりを可能にしたものがスタンダードMIDIファイル(SMF)です。

スタンダードMIDIファイルには3種類のフォーマット(形式)があり、**C-900**はこのうちのフォーマット0とフォーマット1に対応しています。市販のデータ・ディスクのうちで、フォーマット0または1のものであれば、**C-900**にセットして演奏することができますし、逆に**C-900**でつくった

バックিং・シーケンスのデータを、スタンダードMIDIファイルとしてディスクにセーブすることもできます。

### START/STOP スタート/ストップ



アレンジメントやSMFソングの演奏、およびバックিং・シーケンスのレコーディングやプレイバックの、スタートとストップをこのキーで指示します。また、デモンストレーション演奏をこのキーを押してストップさせることもできます。

演奏や録音が始まると、それぞれの演奏データで設定されている拍子にあわせて、1拍目は赤色に、その他の拍は緑色で点滅を続けます。

また、フォーマット1のSMFデータをフロッピー・ディスクからロードしている間は、このLEDは赤色で速く点滅を続けます。

## STEP RECORDING ステップ・レコーディング

**C-900**で演奏を録音する方法の1つで、ひとつひとつの音符を、音の高さや長さ、強さといったデータとして入力していく方法のことを、ステップ・レコーディングといいます。鍵盤を弾くのになれていなくても、正確な演奏データを作ることができます。

これにたいして、テープレコーダーで演奏を録音するときのように、鍵盤を演奏したそのままを同時にどんどん録音していく方法を、リアルタイム・レコーディングといいます。

## STYLE スタイル

**C-900**において曲や伴奏を組み立てるための素材となる、さまざまな音楽の典型的なパターンを集めたものをスタイルと呼びます。

☞アレンジメント

### スタイル・エレメント

1つ1つのスタイルに含まれるバリエーション、イントロ、フィル・イン、エンディングなどの、曲を構成する材料をスタイル・エレメントと呼びます。

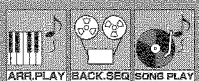
### SYNCHRO START/STOP シンクロ・スタート/ストップ



演奏を始めるとき、START/STOPキーの代わりにこのキーを押しておく、鍵盤に手を触れた瞬間に、アレンジメント・プレイがスタートし、鍵盤から手を離すと同時に、アレンジメント・プレイがストップするようにできます。

☞P.24

## T

TAP TEMPO  
タップ・テンポ

このキーをたたく速さにあわせて、演奏テンポを♩=40～240範囲で設定することができます。

TAP TEMPOキーを続けて何度かたたくと、そのタイミングにあわせて、演奏テンポが自動的に設定されます。同時に、液晶画面にそのテンポが表示されます。

TAP TEMPOキーによるテンポの設定は、演奏中でも、演奏がストップしているときでも行えます。

☞P.24

TEMPO/VALUE (DOWN, UP)  
テンポ/バリュー

1. 各モードでの演奏のときに、テンポを一時的に変更したい場合は、このキーを使います。

DOWNキーを押すと、テンポは遅くなり、UPキーを押すと、テンポは速くなります。

DOWNキーとUPキーを一緒に押すと、バックキング・シーケンスの再生時であれば、テンポはAUTに、録音時であればRECに設定されます。☞活用ガイドP.20

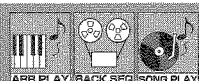
\* KBD LOCK機能を使用すれば、別のアレンジメントに切り替えたときでも、同じテンポで演奏することができます。☞KBD LOCK

2. カーソルで選択された項目に対して、設定する数値を増減したり、候補を表示したりするときは、このキーを使います。

DOWNキーを押すと、数値が小さくなります。あるいは、選択されている候補の前の候補が表示されます。

UPキーを押すと、数値が大きくなります。あるいは、選択されている候補の次の候補が表示されます。

DOWNキーとUPキーを一緒に押すと、選択されている項目はその項目を選択したとき(カーソルをその項目に移動させた時点)の設定値にリセットされます。

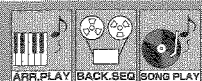
TRACK/CHANNEL  
トラック/チャンネル

鍵盤で実際に演奏するパートや、伴奏として自動演奏されるその他の音色、ベース、パーカッション、ドラムなどのパート(トラックまたはチャンネル)の1つ1つについて、音量や音色、ダンパー・ペダルの動作、ステレオ定位、オクターブなどといった設定を行うときに、このキーでトラック(またはチャンネル)を指定します。

音量の設定については、「ボリューム/ミュート」(P.58)の項を参照してください。その他の設定については、活用ガイドのアレンジメント・プレイ・モードやバックキング・シーケンス・モードの「トラック設定」の項を参照してください。

TIE  
タイ

バックキング・シーケンスのステップ・レコーディングにおいて、現在表示されているステップと、小節線をまたいだ直前のステップとを1つの音符につなぎたいときには、このキーを押してください。☞活用ガイドP.21

TRANSPOSE (-1/+1)  
トランスポーズ

このキーを押すと、C-900の鍵盤で演奏したり、自動演奏したりするときの音程を、半音ずつ±1オクターブまでの範囲で、上下させることができます。

トランスポーズの設定は、液晶画面の表示で確認することができます。

-1または+1のキーを押すと、画面は次のような表示になります。

この画面は、このキーから手を離してから約7秒後にもとの表示に戻ります。

スプリット・ポイント トランスポーズの設定



ロー側  
の  
キーボード・ティンバーの発音  
/ミュートの状態

アッパー側  
の  
キーボード・ティンバーの発音  
/ミュートの状態

-1と+1のキーを同時に押すと、トランスポーズの値は、直ちに0にリセットされます。

## V

VARIATION (1, 2, 3, 4)  
1. バリエーション

C-900が内蔵しているそれぞれのスタイルに対して、このキーで4通りのバリエーションを選ぶことができます。

アレンジメントを演奏している途中で、このキーを押して別のバリエーションを選択すると、バリエーションの種類に応じて即座に、または次の拍あるいは次の小節から、選択したバリエーションの演奏に切り替わります。

また、アレンジメント・プレイ・モードのFillパラメータを設定しておく、Fillを演奏したあと、自動的に別のバリエーションに切り替わり、曲の展開に変化をつけることができます。

☞活用ガイドP.8「バリエーション・チェンジ」

選択されたバリエーションのLEDは、そのバリエーションに演奏が切り替わるまで点滅を続けます。

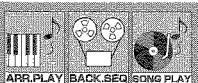
## 2.ステップ入力



バックিং・シーケンス・モードのステップ・レコーディングで、ステップ(音符の長さ)をこのキーで直接指定することができます。☞活用ガイドP.21「ステップ・レコーディング」

- VARIATION 1 = ♩。(全音符)
- VARIATION 2 = ♪。(2分音符)
- VARIATION 3 = ♪。(4分音符)
- VARIATION 4 = ♪。(8分音符)

## VOLUME/MUTE ボリューム/ミュート



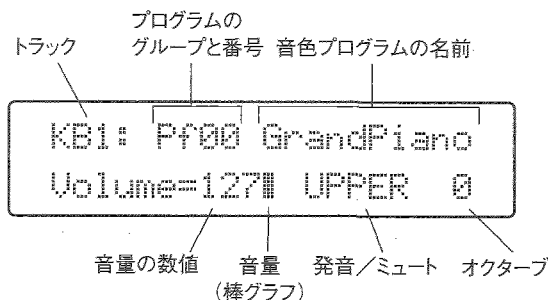
演奏されるそれぞれのトラック(ソング・プレイ・モードの場合はチャンネル)ごとに、そこに割り当てられている音色プログラムの音量や消音(ミュート)の設定をしたいときは、これらのキーを使います。ただしバックিং・シーケンス・モードでは、リアルタイム録音・再生ページ(一番最初のページ)を開いているときでないと、音量やミュートの設定はできません。

いずれのトラック/チャンネルでも、▲のキーを繰り返し押すたびに、プログラムの音量は大きくなっていきます。また、▼のキーを繰り返し押すたびに、プログラムの音量は小さくなっていきます。これらのキーは、押し続けると連続的に値が増減するようになっています。

さらに、▲と▼のキーを同時に押すたびに、発音できる状態とミュートの状態とを切り替えることができます。

これらの音量の増減や発音/ミュートの状態の変化は、どれも液晶画面の数値や棒グラフなどの表示で確認することができます。

この▲か▼のどちらかのキーを押すと、液晶画面には次のように表示されます。



画面の上の行には、押したキーに対応するアレンジメントトラックまたはエクストラトラック(バックিং・シーケンスのとき)と、そのトラックに割り当てられている音色プログラムが表示されます。ただしソング・プレイ・モードのときにはトラックではなく、対応するMIDIチャンネルと、そのチャンネルに割り当てられている音色プログラムが表示されます。

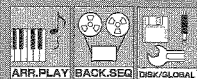
下の行の左側には、そのトラックあるいはチャンネルの音量が、000(最小)から127(最大)までの数値と、小さな棒グラフで表示されます。

下の行の右側には、そのトラックあるいはチャンネルが発音できる状態(PLAY)になっているか、それともミュートの状態(---)になっているか、およびオクターブの設定をしめす数値が表示されます。ただし、アレンジメントトラックのKBD1/UPPERまたはKBD2/LOWERキーを押した場合には、発音できる状態を表わすPLAYのかわりに、右手例(UPPER)または、左手例(LOWER)がそれぞれ発音できる状態かどうかが表示されます。

また、これらの画面の表示は、そのままキーの操作をなにもせずにおくと、約7秒後にもとのページ画面の表示に戻ります。

## Y

### YES イエス



液晶画面に、操作の実行や処理の継続の確認を求める(Yes/No)の表示が出たとき、Yesを選択したい場合はこのキーを押してください。また、バックিং・シーケンス・モードのステップレコーディングで、コードを入力する際に、指定したコードを確定するときは、このキーを押してください。

また、サブページを選択できる画面で、カーソルで指示したサブページを開きたいときにも、このキーを押してください。☞P.33



## 8. MIDI機能

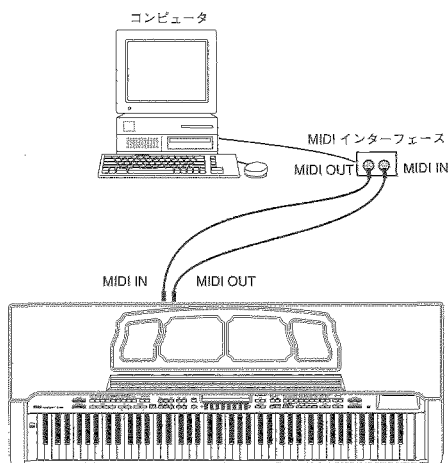
MIDI (Musical Instrument Digital Interface)は複数の電子楽器を相互に接続して使うための標準インターフェースです。

この章では**C-900**に関連したMIDIの使用方法について説明します。MIDIについて興味のある方のために、MIDIについて分かりやすく説明した本も数多く出版されていますので、参照されることをおすすめします。

### 外部シーケンサーとC-900を組み合わせて

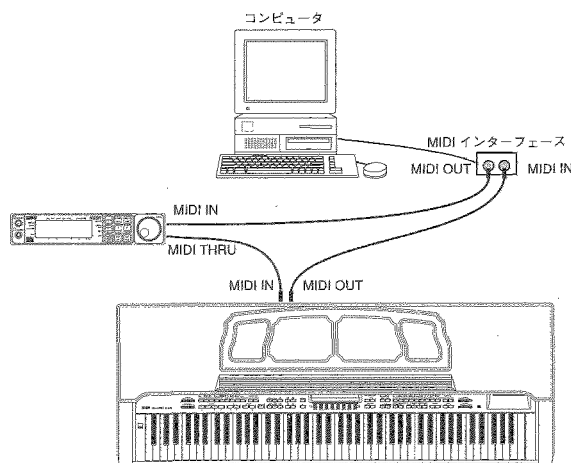
すでにご覧になってきた通り、**C-900**のバックিং・シーケンス・モードで演奏をレコーディングし、ソング・プレイ・モードでスタンダードMIDIファイルのシーケンスを再生することができますが、コンピュータのシーケンス・ソフトウェアを使って作曲したい場合もあるでしょう。この手のシーケンス・ソフトは通常かなり高度な編集機能がありますが、インタラクティブな機能は持っていません。

そこで、**C-900**の鍵盤からコンピュータのシーケンサーにノート・データを入力したい場合は、次のような接続を行います。



この接続方法ですと、**C-900**のデータが**C-900**のMIDI OUT端子に送られ、コンピュータのMIDIインターフェースにあるMIDI IN端子に入ります。シーケンス再生時には、コンピュータからのMIDIデータがMIDIインターフェースのMIDI OUT端子を通過して**C-900**のMIDI IN端子に入ります。

さらに別のキーボードや音源モジュールを追加したい場合は、次のような接続を行ってください。



このセットアップでは、**C-900**の鍵盤から入力したデータが**C-900**のMIDI OUT端子に送られ、コンピュータのMIDIインターフェースにあるMIDI IN端子に入ります。シーケンス再生時には、コンピュータからのMIDIデータがMIDIインターフェースのMIDI OUT端子を通過して音源モジュールのMIDI IN端子に入ります。このデータは次に音源モジュールのMIDI THRU端子から**C-900**のMIDI IN端子に送信されます。

バックিং・シーケンスのグローバル・チャンネルや、それぞれのトラックのMIDIチャンネルは、ディスク/グローバル・モードで設定します。また、SMFを外部のMIDI機器から受信して**C-900**で演奏する場合、**C-900**のMIDIチャンネル構成の設定は、ソング・プレイ・モードで行います。ソングの初期設定プログラム、ボリューム、パンポット、エフェクト・センドを指定したり、その情報をコンピュータからMIDIで送信することができます。

プログラム・チェンジ・メッセージを送るときは、MIDIバンク・チェンジ・メッセージ0で**C-900**のバンク0を選び、1でバンク1、2でバンク2を選択します。

**C-900**の全プログラムとそれに対応するMIDIバンク・ナンバーおよびMIDIプログラム・ナンバーは、活用ガイド付録Dの「プログラム一覧」をごらんください。

前述のセットアップを使う場合は、**C-900**のディスク/グローバル・モードにある<Local Control/パラメータ>をOFFに設定することをおすすめします。コンピュータのシーケンサーは、MIDI IN端子で受信するデータをMIDI OUT端子にエコー・バックするように設定してください。この機能をコントロールするパラメータは、お使いのソフトウェアによって名前が異なりますが、通常はエコー・バックとか、パッチ・スルー、エコー・オンなどの用語が使われています。

Local Controlをオフにすると、**C-900**のキーボードの部分と音源の部分との接続が切り離されます。つまり、**C-900**が独立したMIDIキーボードと別個の音源として機能します。コンピュータのシーケンサーのエコー機能を使うと、MIDI音源モジュールに入っている音源だけでなく、**C-900**の音源も演奏することができます。シーケンサーのエコー機能をオンに設定し、かつ**C-900**のLocal Control/パラメータもONにすると、キーボードで1音を弾くたびに、**C-900**の音源は2つの音を演奏します。

## C-900から別のMIDI楽器をコントロール

別のMIDI楽器を使って、**C-900**のアレンジメントとバックキング・シーケンスを演奏することができます。この場合、必ずMIDIチャンネルを正しいトラックに合わせてください。また、各モードの<トラック・ステータス・パラメータ>を使って、**C-900**が他のMIDI機器だけでなく**C-900**自体のサウンドも演奏させるかどうかを設定することが必要です。

トラック・ステータス・パラメータはアレンジメント・プレイ・モードのページ4にあります。

このパラメータをOFFに設定すると、対応するトラックは全く演奏されません。INTに設定すると、**C-900**本体内のサウンドのみが演奏されます。EXTに設定すると、信号は外部MIDI楽器にのみ送信されます。BOTHに設定すると、**C-900**本体内外と外部MIDI楽器のサウンドが両方とも演奏されます。

再生されるサウンドは使用するMIDI楽器によって異なります。たとえば、**C-900**のドラムサウンドを外部MIDI楽器で演奏しようとする場合、この外部MIDI楽器が**C-900**と同じドラム・キットのレイアウトを持っていないと、予想とは違った音が出る場合があります。

## General MIDIとは?

**C-900**はGMシステムに準拠しています。

GM(General MIDI System Level 1)とは、メーカーや機種を越えて音源の音色配列などを標準化するために定められた世界標準の規定です。

GMに準拠したMIDI音源、曲データには“GM”マークが付けられており、このマークが付いた曲データであれば、“GM”マークの付いたどの音源でも、ほぼ正確な演奏を再現することができます。

**C-900**ではGMの128個の音色、DRUM KITの“01”(GM Kit)の音色がそれに当たります。

**C-900**では、MIDIバンク・ナンバーの0がGM対応となっています。MIDIバンク・ナンバー1、3、および4には**C-900**のオリジナルのプログラムが収納されており、バンク・ナンバー2にはドラム・キットが納められています。ひとつひとつの音色は、活用ガイド付録D「プログラム一覧」を参照してください。

### GMシーケンス・データの演奏

GM対応のシーケンス・データをフォーマット0のスタンダードMIDIファイルでセーブしてある場合は、ソング・プレイ・モードで**C-900**のディスクドライブから直接シーケンス・データを演奏することができます。

また、ソング・プレイ・モードでは、外部シーケンサーからのGMシーケンス・データをMIDIにより再生することもできます。

## スタンダードMIDIファイルについて

P.56「機能と操作用語集」を参照してください。

スタンダードMIDIファイルの演奏は、ソング・プレイ・モードで行います。

☞活用ガイドP.39「ソング・プレイ・モード」

バックキング・シーケンス・モードのSMF変換機能を使ってファイルを変換し、バックキング・シーケンスをフォーマット0のスタンダードMIDIファイルにセーブすることもできます。

☞活用ガイドP.38「スタンダードMIDIファイルへの変換」

# 9.コンピュータとの接続

**C-900**はコンピュータと専用接続ケーブルで接続することにより、コンピュータで**C-900**を鳴らしたり、**C-900**でのキーボード演奏をコンピュータに記録することができます。

## IBM PC(互換機):

接続キットAG-001B(接続ケーブル、ドライバー・ソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]

## Apple Macintoshシリーズ:

接続キットAG-002B(接続ケーブル、ドライバー・ソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]

## NEC PC-9800シリーズ:

●RS-232C(SERIAL1)を利用する場合には…

接続キット AG-003B(接続ケーブル、ドライバー・ソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]

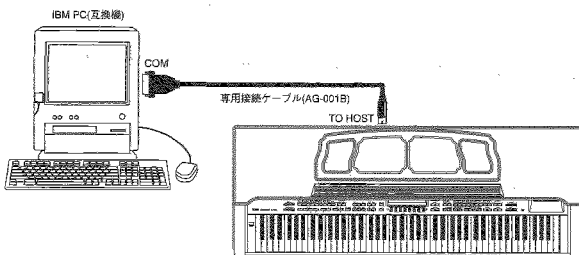
●SERIAL2を利用する場合には…

接続キット AG-001B(接続ケーブル、ドライバー・ソフトウェア“KORG MIDI Driver”)[別売]

- \* コンピュータの機種、またアプリケーション(ソフトウェア)の種類によっては、ご使用になれないことがあります。
- \* **C-900**のMIDI OUTとTO HOSTの両方を外部の一台の機器に接続しないでください。必ずどちらか一方だけを接続してください。

## IBM PC(互換機)との接続

IBM PC(互換機)のシリアル・ポート(COMポート)と**C-900**のTO HOST端子を専用接続ケーブル(AG-001B[別売])で接続します。



- \* コンピュータの機種、またはアプリケーション(シーケンサー)の種類によってはご使用になれませんので注意してください。Windowsに対応していないアプリケーションでは、この接続ではご利用になれません。
- \* コンピュータのシリアル・ポートが25ピンの場合は9ピン-25ピン変換アダプターをご利用ください。

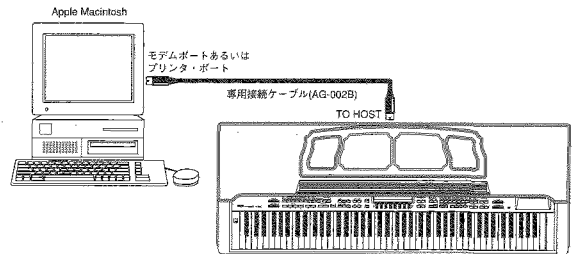
**C-900**をIBM PC(互換機)と接続する場合には、ディスク/グローバル・モードのHost BRを“38.4k”に設定します。

☞ 活用ガイドP.60

Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は、P.62を参照してください。

## Apple Macintoshとの接続

Apple Macintoshのモデム・ポートあるいはプリンタ・ポートと**C-900**のTO HOST端子を専用接続ケーブル(AG-002B[別売])で接続します。



**C-900**をApple Macintoshと接続する場合には、ディスク/グローバル・モードのHost BRを“31.25k”に設定します。

☞ 活用ガイドP.60

## NEC PC-9800シリーズとの接続

●RS-232C(SERIAL1)を利用する場合には…

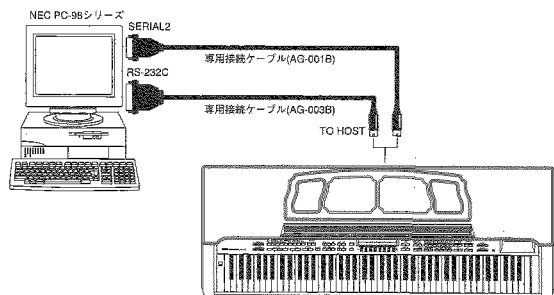
NEC PC-9800シリーズのRS-232C端子と**C-900**のTO HOST端子を専用接続ケーブル(AG-003B[別売])で接続します。Host BRは31.25kに設定します

- \* コンピュータの機種、またはアプリケーション(シーケンサー)の種類によってはご使用になれませんので注意してください。

●SERIAL2を利用する場合には…

NEC PC-9800シリーズのSERIAL2端子と**C-900**のTO HOST端子を専用接続ケーブル(AG-001B[別売])で接続します。Host BRは38.4kに設定します

- \* Windowsに対応していないアプリケーションでは、この接続ではご利用になれません。



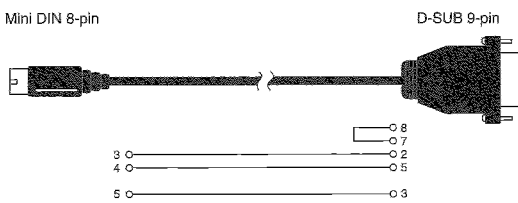
MS-DOS上のアプリケーション(シーケンサー)をお使いになる場合は、RS-232C/MIDI変換アダプターモードに設定します。また、Windowsでお使いになる場合は、KORG MIDI Driverをインストールします。インストールの方法は、P.62を参照してください。

## HOST BRの設定

1. DISK/GLOBALキーを押してディスク/グローバル・モードにします。
2. PAGE +/-キーを押してLocal/Clock/Host BR画面にします。
3. CURSOR ◀/▶キーでHost BRを選びます。
4. VALUE UP/DOWN キーで選択します。
  - 31.25k: Appie Macintoshとの接続  
NEC PC-9800シリーズのRS232C  
(SERIAL 1)端子を利用する接続
  - 38.4k: IBM PC(互換機)との接続  
NEC PC-9800シリーズのRS232C  
(SERIAL 2)端子を利用する接続

## 専用接続ケーブル配線図

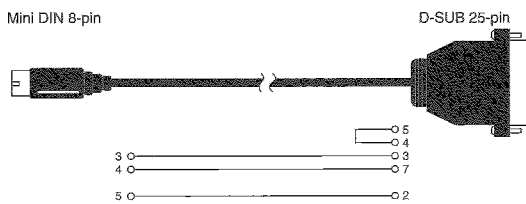
(1) AG-001B (for IBM PC or Compatible, or PC-98 Serial 2)



(2) AG-002B (for Macintosh)



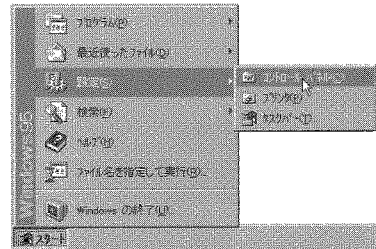
(3) AG-003B (for NEC PC-98)



## KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ

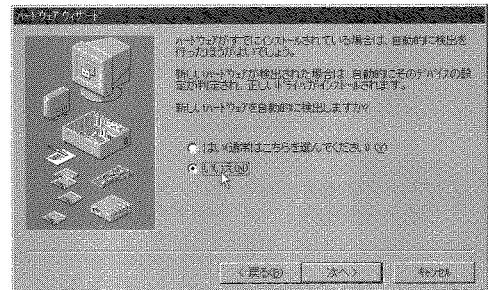
## KORG MIDI DriverのWindows95へのインストール

- ① タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、[設定]の中の[コントロールパネル]をクリックします。

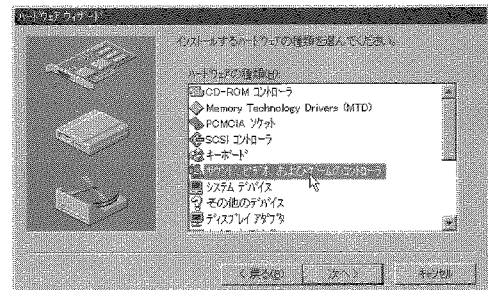


- ② コントロールパネルの中の[ハードウェア]アイコンをダブルクリックすると、ハードウェアウィザードが起動するので[次へ>]ボタンをクリックします。

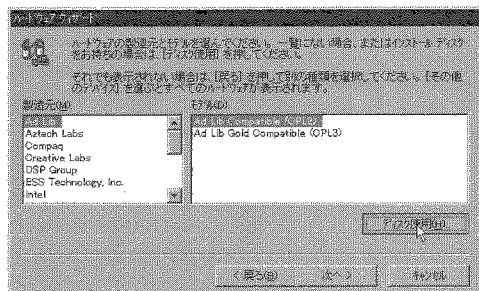
- ③ 新しいハードウェアを自動的に検出しますか?という質問に対して、必ず[いいえ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。



- ④ [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。

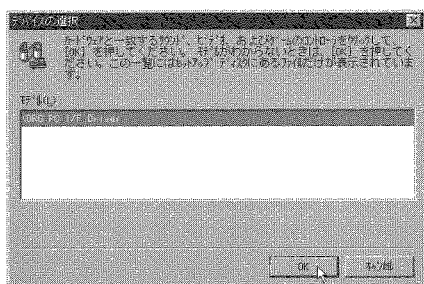


- ⑤ [ディスク使用]をクリックします。

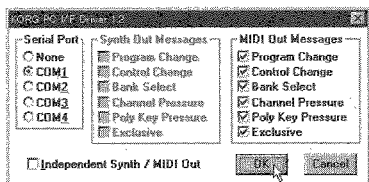


ドライブとディレクトリを指定するダイアログが表示されます。

- ⑥ AG-001B、AG-003Bの付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。Aドライブに入れた場合は“A:¥” (Bドライブの場合は“B:¥”)と入力し、[OK]ボタンをクリックします。  
ただし、PC-9800シリーズでAG-001Bの付属ディスクをインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れた場合は“A:¥PC98” (Bドライブの場合は“B:¥PC98”)と入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。
- ⑦ [OK]ボタンをクリックして、[完了]をクリックします。



- ⑧ 「KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ」(P.64 参照)に従ってセットアップを行い、[OK]ボタンをクリックします。

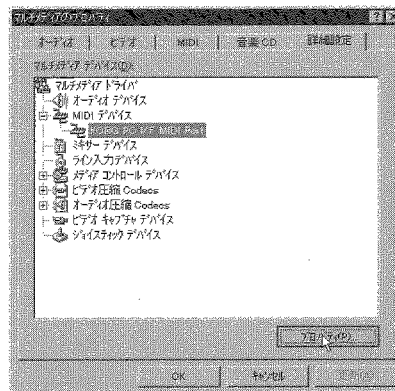


- ⑨ ドライバーを有効にするために必ず再起動してください。

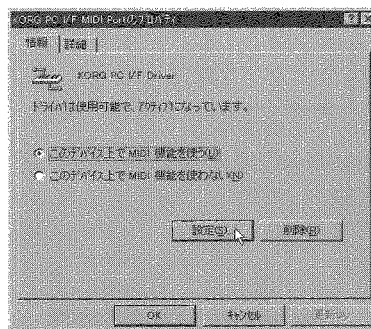


## KORG MIDI Driverの Windows95のセットアップを変更する場合

- ① コントロールパネルの中の[マルチメディア]アイコンをダブルクリックすると、マルチメディアのプロパティダイアログが表示されます。



- ② 右上の[詳細設定]タブをクリックします。
- ③ [MIDIデバイス]の[+]をクリックして(表示が[-]に変わります) [KORG PC I/F MIDI Port]をクリックします。
- ④ [プロパティ]ボタンをクリックします。  
KORG PC I/F MIDI Portのプロパティが表示されます。
- ⑤ [設定]ボタンをクリックします。



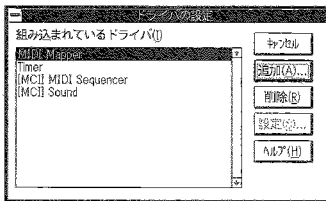
「KORG MIDI Driver (Windows) のセットアップ」に従ってセットアップを行い、[OK]ボタンをクリックします。  
設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。

## KORG MIDI DriverのWindows 3.1へのインストール

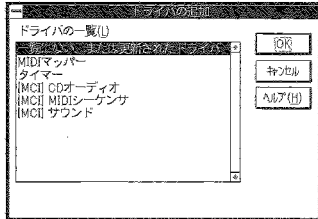
- ① コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックします。



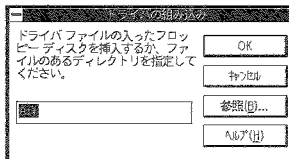
- ② [追加...]ボタンをクリックします。



- ③ ドライバの一覧の中から[一覧にない、または更新されたドライバ]を選び、[OK]ボタンをクリックします。



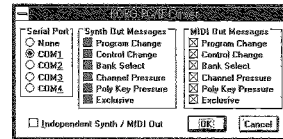
- ④ AG-001B、AG-003Bの付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。Aドライブに入れた場合は“A:¥”(Bドライブの場合は“B:¥”)と入力し[OK]ボタンをクリックします。



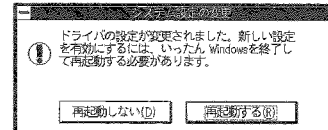
ただし、PC-9800シリーズでAG-001Bの付属ディスクからインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れた場合は“A:¥PC98”(Bドライブの場合は“B:¥PC98”)と入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

- ⑤ KORG PC I/F Driverを選び、[OK]ボタンをクリックすると、セットアップの画面になります。[KORG MIDI Driver

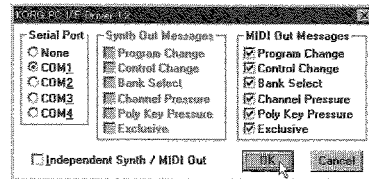
(Windows)のセットアップ」(P.62参照)に従って、セットアップを行ってください。



- ⑥ セットアップ後、ドライバを有効にするために、ディスクを取り出し、[再起動する]を選択します。



## KORG MIDI Driver (Windows)のセットアップ



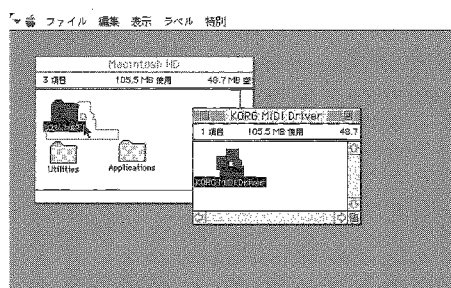
- ① Serial Portでは**C-900**を接続したシリアルポートを[COM1]～[COM4]の中から選びます。PC-9800シリーズではRS-232C (SERIAL 1)に接続している場合は[COM1]に、SERIAL2に接続している場合は[COM2]を選んでください。  
KORG MIDI Driverを組み込んだ後に、シリアルポートを別の用途に使うときには、[None]を選んでドライバを無効にしてください。
- ② [Independent Synth/MIDI Out]をチェックしてあるときは、チェックをはずします。  
チェックすると誤動作の原因になります。
- ③ [MIDI Out Messages]ではC-900へ送るメッセージを選ぶことができます。
- ④ 選択が終わったら[OK]ボタンをクリックします。また、無効にしたい場合は[Cancel]をクリックします。

## KORG MIDI DriverのMacintoshへのインストール

▲ KORG MIDI Driverを使用するには、あらかじめApple MIDI ManagerおよびPatchBayがインストールされている必要があります。Apple MIDI ManagerおよびPatchBayは、お使いのMIDIアプリケーションに付属されているものをお使いください。AG-002Bには付属されていません。

KORG MIDI Driverを使うと、“Modem MIDI Out/Port setting”ダイアログ(P.65)で、**C-900**に送るMIDIチャンネルとメッセージの種類を設定することができます。そのような機能が必要ない場合は、KORG MIDI Driverを使わずに、Apple MIDI Driverをそのまま使用することができます。Apple MIDI Driverを使う場合や、Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサ)を使う場合はP.65を参照してください。

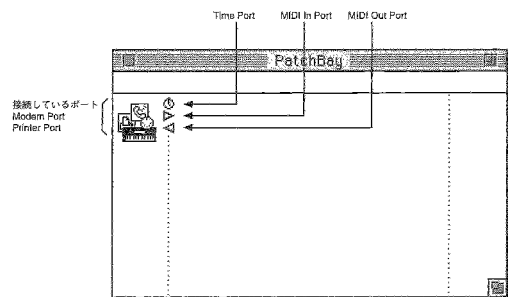
- ① AG-002Bの付属ディスク内のKORG MIDI Driverを起動ディスクのシステムフォルダにコピーします。



- ② システムフォルダ内にApple MIDI Driverがあるときは削除するか、他のフォルダに移動してください。Apple MIDI Managerは削除や移動を行わないように注意してください。
- ▲ KORG MIDI Driverは、Apple MIDI Driverの機能を含んでいます。
- ③ 特別メニューから“再起動”を選択します。

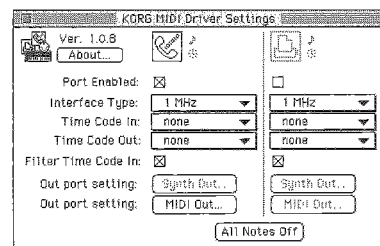
## KORG MIDI Driver (Macintosh)のセットアップ

- ① PatchBayを起動します。

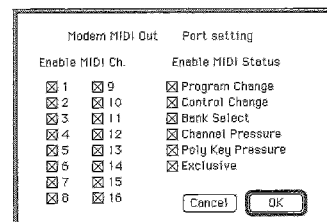


インストールが正しく行われた後、PatchBayを起動すると上図のようにPatchBayウィンドウ内にKORG MIDI Driverのアイコンが表示されます。Modem/Printerの各ポートはセットアップの状態により表示が異なる場合があります。

- ② PatchBayの中のKORG MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。セットアップダイアログが表示されます。



- ③ **C-900**を接続しているポートのPort Enableをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定します。**C-900**にはKORG PC IFが内蔵されていないので、[KORG PCIF]を選択しないでください。
- ④ [Out Port Setting]ボタンを押します。次のダイアログが現れます。ここで各ポートへ出力されるMIDIチャンネル/メッセージを選択することができます。チェックされているチャンネル/メッセージのみ出力します。



- ⑤ 設定後、[OK]ボタンを押します。
- ⑥ MIDIアプリケーション(シーケンサ)を起動して、MIDIアプリケーションのOut Portの<からマウスをドラッグして

MIDI DriverのMIDI Outに接続します。

▲ PatchBayの使用方法については、“Apple”メニューの“About PatchBay...”等の説明を参照してください。

Apple MIDI Driverを使う場合は、(KORG MIDI Driverがシステムフォルダ内にあるときは、削除または移動した後) PatchBayを起動し、その中のApple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックして、**C-900**を接続したPortのEnabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定して、ダイアログを閉じます。PatchBay上で、MIDIアプリケーション(シーケンサ)のOut Portの◀からマウスをドラッグして、MIDI Outに接続します。

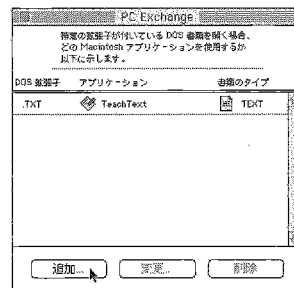
Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサ)を使う場合は、**C-900**が接続されているPortを選択し、クロックの設定を[1MHz]に設定してください。

## PC ExchangeによるSMFの変換方法

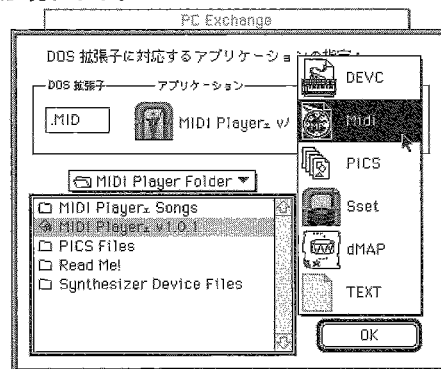
市販のスタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルのほとんどが、MS-DOSフォーマットで保存されています。

PC Exchangeを使用すると、MS-DOSフォーマットのSMFソングファイルをMacintoshで認識できるようにすることができます。

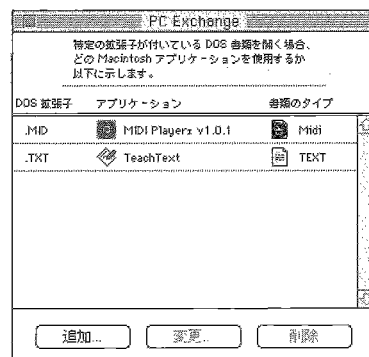
- ① コントロールパネル内のPC Exchangeを開きます。



- ② [追加...]ボタンを押します。  
[DOS拡張子に対応するアプリケーションの指定]ウィンドウが現れます。



- ③ DOS拡張子項目に“.MID”と入力します。  
MS-DOSでは、ファイルの種類を分類するために拡張子というピリオドの後に続く3文字をファイル名の後に付けます。SMFには、“.MID”という拡張子をつけるのが一般的です。
- ④ ダイアログの下半分に表示されている一覧から、お持ちのSMFを扱えるMIDIアプリケーション(シーケンサ)を選びます。  
アプリケーション項目に選択したアイコンが現れます。





- ⑤ [書類のタイプ]ポップアップメニューから[Midi]を選び、[OK]ボタンをクリックします。  
PC Exchangeウィンドウに追加された項目が表示され、登録されました。

MS-DOSのSMFをディスクドライブに挿入すると、そのまま使用することができます。

詳しくは“Macintosh PC Exchange”の解説を参照してください。

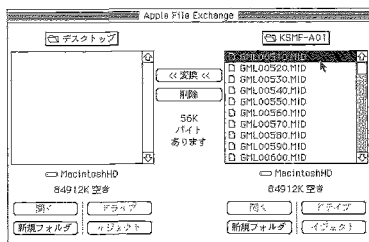
## AG-002B付属のMIDI File Translatorについて

お使いのMacintoshにPC Exchangeではなく、Apple File Exchangeが付属している場合は、AG-002Bに含まれているMIDI File Translatorを使って変換することができます。

- ① MIDI File TranslatorをApple File Exchangeと同じフォルダに入れます。



- ② Apple File Exchangeをダブルクリックして、起動します。  
③ 変換したいMS-DOSディスクをドライブに挿入します。



上のような画面が表示されます(画面上はKORG SMFライブラリKSMF-A01です)。MS-DOSフォーマットのディスクは必ず“Apple File Exchange”を起動させてから、ディスクドライブに入れてください。

- ④ 変換したいソング(曲)ファイルを選びます。  
⑤ 中央の「<<変換<<」(または「>>変換>>」)ボタンを押します。



変換が始まります。棒グラフが100%までいくと、変換が完了します。左側のボックスに変換されたファイルが現れます。

- ⑥ Apple File Exchangeを終了します。



## 10. 仕様とオプション

音源方式	AI <sup>2</sup> シンセシス(フル・デジタル・プロセッシング)
音源	32ボイス、32オシレータ(シングル・モード) 16ボイス、32オシレータ(ダブル・モード時)
鍵盤	88鍵(ペロシティ・センス)
波形メモリ	PCM ROM 14Mbyte
エフェクト	2系統ステレオ・デジタル・マルチエフェクト・システム、48種類
プログラム	GMプログラム128個とGMドラム・プログラム1個 ROMに内蔵 プログラム199個とドラム・プログラム13個をROMに内蔵 ユーザー・プログラム64個とユーザー・ドラム・プログラム2個をRAMに記憶
アレンジメント	128種類をROMに記憶 ユーザー・アレンジメント64種類をRAMに記憶
バックキング・シーケンス	10種類をRAMに記憶
バックキング・シーケンス容量	40,000イベント
ソング	16チャンネル、16音色(ダイナミック・ボイス・アロケーション)
コントローラ	アサイナブル・ペダル/スイッチ、EC5
オーディオ出力	OUTPUT(L/MONO, R)*1、ヘッドフォン×2 *1
オーディオ入力	INPUT(L/MONO, R)、MIC INPUT *1
MIDI	IN、OUT
PCインターフェイス	TO HOST
フロッピー・ディスク・ドライブ	3.5インチ2DD/3.5インチ2HD(IBM PC 1.44MB)
液晶画面	バックライト付LCD、20文字×2行
メイン・アンプ	40W×2
スピーカー	20cm×2、5cm×2
電源	定格100V
消費電力	78W
標準付属品	プリロード・プログラム・データ・ディスクCFD-01P、専用スタンド、専用椅子、ヘッドホン、日本語シート
寸法	1,412(幅)×528(奥行)×906(高さ)mm
重量	62.0kg (スタンド含む)
オプション	EC5エクスターナル・コントローラ、DS-1Hダンパー・ペダル、PS-1ペダル・スイッチ、EXP-2エクスペッション・ペダル、XVP-10エクスペッション・ペダル、AG-001B、AG-002B、AG-003B接続キット

\*1: 標準プラグ

仕様は予告なく変更することがあります。

# アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーション及び、コルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

## ▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	☎(06)374-0691
福岡営業所	〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	☎(092)531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。

営業技術課 〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3309-7004

### <WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

（この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。）

# KORG

■本社：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12 ☎(03)3325-5691 / インフォメーション：☎(03)5376-5022  
■東京営業所：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17 ☎(03)3323-5241  
■名古屋営業所 / ショールーム / スタジオ：〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51 ☎(052)832-1419  
■大阪営業所：〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F ☎(06)374-0691  
■福岡営業所：〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F ☎(092)531-0166